「いい音」ビューティフル。

自由に気ままに楽しもう、おしゃれなミニカセットレコーダー。

新開発DNSSテープヒスノイズカット回路内蔵。
デジタル選曲機構装備。メタルテープ対応。

小さなボディながらもワイドなステレオサウンドが楽しめる《ステレオミニ6600》。2つの9.2cmスピーカーが叩き出す4.6W(2.3W+2.3W、EIAJ/DC)のハイパワーは、豊かなステレオ臨場感を再現します。また曲の頭出しに便利なデジタル選曲機構や、テープ再生中に曲間および曲間に相当する低録音レベル時の耳ざわりなテープヒスノイズをカットする新開発DNSS(ダイナミック・ノイズ・サプレッション・システム)ノイズカット回路を採用。しかもメタルテープ対応ヘッドを搭載しています。

●AM放送の同調がしやすい周波数間隔を広げたロングスケール採用●テレビの1、2、3チャンネルが聴けるFMワイドバンド(76～108MHz)採用 ●FM局間ノイズをカットするFMミューティング機能つき ●フルオートストップ機構 ●ソフトイジェクト機構 ●ACアダプター付属

●9.2cmスピーカー×2 ●実用最大出力4.6W(2.3W+2.3W)EIAJ/DC ●3電源/DC:9V(単2×6)、AC:100V50/60Hz(付属ACアダプター使用)、カーバッテリー:別売りカーアダプターD-72使用 ●大きさ幅41.0×高さ13.3×奥行7.3(cm) ●重さ2.5kg(乾電池含む) ★キャリングケース(別売りL-6600 ¥4,000)もございます。

TRK-6600 ¥44,800

品質を大切にする〈技術の日立〉

RADIO CASSETTE RECORDER

―― 生活と技術をむすぶ ――

日立家電販売株式会社

〒105 東京都港区西新橋2 15 12(日立愛宕別館)TEL(03)502-2111

ご購入金額から頭金を差引いた金額が1万2千円から100万円までの場合日立のクレジットがご利用いただけます。

□昭和57年度全国高等学校総合体育大会

□高松宮杯第33回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

久留米工大附高3回目の制覇

女子は日川が初の栄冠

□チーム全体のスピードあるコンビネーションプレーに成果

男子決勝戦

総評

昭和57年度全国高等学校総合体育大会、高松宮賜杯第33回全日本高等学校ハンドボール選手権大会は、本州の最南端の鹿児島県隼人町の町営運動場を主会場に8月1日より7日までの7日間、全国2千余チームより激しい予選を勝ち抜いた、男子では28回出場の新居浜工（愛媛）を筆頭に初出場9校、女子では29回出場の涌谷高（宮城）を筆頭に初出場7校の新鋭、古豪男・女各48チームにより華々しく開催された。

開始式は青く澄みきった南国の焼けつくような太陽の下で、8月1日午後3時より、新装なった隼人町営運動場において、一、四〇〇余名の選手全員参加の下に行なわれた。母校の栄誉と自己の栄光を目指して、カラフルなユニフォームに飾られた選手の行進は川添競技副委員長の先導の下に若さと気迫に満ち、式典のスムーズの進行と共に立派なものであった。

式後さわやかな微風とシンボル桜島の噴煙を眺めながら公開された、郷土民芸「鈴かけ馬おどり」の軽快のリズムは参加者にとって忘れぬことのできない思い出となったことであろう。

競技は、連日好天に恵まれ三十度を越す炎天の下に好試合が繰り広げられた。

男子では、春の選抜大会準優勝の県立岐阜商、第三位の瓊浦高、（長崎）がいずれも二回戦で姿を消し、緒戦より技倆の伯仲した好ゲームが数多く展開された結果、ベストエイトには、愛知高（愛知）、青森商高（青森）、川口北高（埼玉）、隼人工高（鹿児島）、久留米工大附属高（福岡）、三島高（大阪）、日川高（山梨）、明星高（東京）が勝ち進んだ。

愛知対青森は大型選手を揃えた青森が前半始めリードするも、愛知が速攻で直ぐ追付き、一点を競う好ゲームとなったが勝利を意識した両チーム共動きが悪くなり、個人プレーにかたよったゲーム展開になったが愛知が逃げ切り辛勝し、地元隼人も健闘したが、川口北のスピードと多彩の攻撃に敗れ、久留米、明星も順当に勝ち進んだ。

準決勝戦は川口北がGK川口の好守に助けられると共に、愛知の攻撃の中心選手浜田の負傷退場のアクシデントもあり愛知高を振り

『ハンドボール』

57年8月号（第210号）目次

【表紙写真】インターハイ男子優勝の久留米工大附高・古賀監督の胴上げ

提供・㈱スポーツイベント

切った。久留米対明星戦は事実上の決勝戦ともいわれる好ゲームであり、技術、体力共に互角の両チームは一つのミスすら許されない緊迫した好試合であり随所に好プレーが続出し、久留米秋吉・明星宇田川の両GKの好守が熱戦に拍車をかけたが、後半終り、明星のPT失敗が仇となり、久留米が逃げ切った。

決勝戦は久留米GK秋吉の再三にわたる好守にチームが盛り上がり、スピードのある多彩な攻撃で主導権をにぎったのに対し、川口北は持ち前のコンビプレーも久留米の長身を利した厚いディフェンスに阻まれて乱れ、得点が続かず最後まで全力を尽し健闘したが敗れ去り、久留米工大附属高が3回目の優勝を成し遂げた。

その他、修道高（広島）、富岡高（群馬）、総社（岡山）、瓊浦（長崎）、二俣（静岡）、学法石川（福島）、岩国（山口）の健闘も目立った。

女子決勝戦・日川高対山陽女子高

女子では、選抜大会第三位の水海道二高（茨城）が二回戦で、同じく第三位の昭和学院（千葉）が三回戦で敗れ去り、ベストエイトには名古屋短大附高（愛知）、総社（岡山）、日川（山梨）、小松市立女（石川）、明石（兵庫）、牧園（鹿児島）、藤村女子（東京）、山陽女子（広島）が勝ち進んだ。

名女短附高対総社は、名女が初出場の総社の頑張りに気押されてか、パスが悪く苦しい試合運びとなったがやっと逃げ切り、日川対小松市女は春の選抜大会で小松が楽勝していたが、日川は一線のディフェンスで小松の細いプレーを良く制すると共にGK日原の好守で自己のペースをつかみ変化ある攻撃で得点し春の雪辱を遂げた。明石対牧園は山内のロングシュートを中心によく健闘した牧園と、ポストプレーを中心に加点した明石と大接戦となったが、明石のPTの失敗もあり後半牧園の辛勝となった。山陽女子対藤村女子は山陽の自力が藤村を上廻りこれまで健闘した藤村も遂に敗れ去った。

準決勝戦名女短大附高対日川は名女の凡ミスを日川がよくついてゲットし、3点リードで前半を折り返したが名女も後半日川の不用意なパスをカットし速攻で追いつき、タイスコアーとし、白熱した好ゲームとなったが、名女はPTを日川GK日原の好守に阻まれると共に、リードされたあせりがリズムを乱し、反対に日川に余裕からの攻守に一層の強まりが見られ惜しくも敗れ去った。牧園対山陽女子は、牧園が地元の大声援と期待を一身に負って異常に緊張し、連日見られたスピードとコンビネーションプレーが見られず、再三のチャンスをラインクロスによりつぶし、この間山陽女子に得点され、苦しい試合運びとなりそのあせりがまたシュートミスに繋がり敗れ去ってしまった、ともあれ鹿児島に初入賞の栄をもたらせると共に、地元チームとして大会を盛り上げた牧園高の健闘は立派なものであった。

決勝戦は日川・山陽女子の間で競われ好ゲームとなったが先取点をとった日川が常に先行し、そのゆとりが主導権をにぎり、日川の初優勝となった。日川・保坂の切れの良い動きと、沼田の好シュートが印象的であった。

その他、初出場の成美（神奈川）、国分実業（鹿児島）、昭和学院（千葉）、松江市立女（島根）、東海大第五高（福岡）、熊本女子商（熊本）、郡山女（福島）の健闘が目立った。

全般的に見ると、個々の優れたプレーヤーの活躍よりも、チーム全体としてのスピードのあるコンビネーションプレーが勝ち残ったチームに見られ、チームプレーが効果的であったことを如実に示しており、大型選手もそのスピードとチームプレーの中でプレーすることがよい成績を生み出した結果となっている。また、個々のディフェンスの強さをチームとしてまとめあげた成果は見るべきものがあり、攻守のバランスが勝敗を決するという競技本来の姿が見られ、立派なゲームが数多く展開されたと共に、優秀なGKが数多く見られる結果ともなった。

また、ラフプレーが従来ともすればゲームを有利に展開する傾向が見られたが、日本ハンドボール協会・隼人町実行委員会の協力を得て、国際審判員3ペアーを加えた審判団の努力もあり、ラフプレーの結果の退場が勝敗のきすうとなる重要ポイントとなり、クリーンのハンドボール競技を目指して努力する姿勢に対し非常に好感が持てる大会であった。

炎天下7日間という長期間の大会は、技術的なものだけでなく、強い精神力と体力が必要とされ、将来の日本のハンドボール競技を背負う若人の大会にふさわしいものであり、選手諸君の努力に対し心より敬意をはらうものである。

大会運営について、本大会は10年前の鹿児島国体の開催を記念しての大会であり、隼人町実行委員会を中心に鹿児島県ハンドボール協会・鹿児島高体連ハンドボール部、その他関係諸団体が一丸となり大会の準備より期間中にわたり緻密な計画と暖い思いやりをもって運営されており、本大会が初期の目的を達成し、成功裡に無事終了することのできたことは「南国に競え若人はぐくめ友情」の大会スローガンの示す如く、多くの人達の情熱と献心的な努力が選手団と一体となり結実したものと確信するものであり、次の大会の大きな礎となることと思う。

（本大会競技委員長清水止）

男子

▽1回戦

横浜商工 23（12 11／10 14）24 西宇治
（神奈川）　（京都）

○…開始30秒横浜商工はペナルティーをはずしたが、1分過ぎ③のペナルティーが決り横浜が先取点。その後、前半11点の内6点までがペナルティーで得点するという西宇治のラフプレーが目立つ試合、11対4で前半終了。

後半西宇治のパスワークがよくなり速攻や⑪のミドルが決まり反撃、1点差を競う好ゲームを展開したが、前半得点差が大きく逆転ならず試合終了。西宇治の前半のパスミスやラフプレーによるペナルティーがなければもっといい試合ができた。（大城）

県盛岡第四 55（25 30／4 4）8 県飯南
（岩手）　（島根）

○…試合開始早々飯南の荒い反則でペナルティースロー2本を確実に決め調子に乗った盛岡は、その後も速攻サイドシュート、ロングを確実に決め大差で前半終了。

後半に入っても盛岡の攻撃がおとろえず、足をつかって確実に点を取り苦もなく一方的なゲームとなる。（高橋）

釧路湖陵 18（7 11／8 8）16 県添上
（北海道）　（奈良）

○…釧路立ち上がり相手のミスを速攻に結びつけたり、⑤を軸にカットインを上手に使い得点を加点すれば、添上も左の③のまわり込んでのシュートを武器にして、ツーポストからのローリングを多用し、一時5点差を2点差まで追い上げたが、ここ1本という折に釧路のGKの好守にはばまれた。

後半、両チームのGKの好守で盛り上がった。カットインのスピードの良い釧路も暑さで途中から力がおち、添上の追い上げかと見えたがあと一歩で釧路が逃げ切った。（千野）

県富岡 20（11 9／9 8）17 修道
（群馬）　（広島）

○…前半立ち上がり、両チームとも速い動きでポストプレー、ジャンプシュート等多彩な攻撃で一進一退の好ゲームを展開9対8と富岡1点リードで前半を終わる。

後半間もなく、修道⑤が退場のすきに富岡は3点を連取し試合を有利にした。しかし修道も必死に反撃し、残り10分13対14と点差を縮め1点差のゲームを続けたが、富岡の厚い守りに突破できず終盤あせりも出てミスが続き富岡に速攻を許す形となり、結局20対17で富岡が逃げ切った。（野中）

県川口北 24（13 11／10 10）20 県小林工
（埼玉）　（宮崎）

○…選抜で中京を破った小林工と激戦地を勝ち抜いて来た川口北好ゲームを展開、小林工はスピードと力強さ、川口北は力強さはないもののうまみを発揮、前半22分川口北速攻で3点リードするも、小林工堀田奮起しロングを立てつづけに決め24分同点、終了直前川口北速攻で前半1点リードで終了。

後半、小林工が同点にしてから10分間1点を争うゲームだったが、これから5分間川口北のサイド、ポスト攻撃がことごとく決まり一気に5点差をつけてしまった。小林工もよく追いロング等で2点差までつめるが追いつけず、エリア付近でのボールキープ力のあった川口北がつき離した。（斉藤）

県新居浜 18（12 6／5 8）13 県明石
（愛媛）　（兵庫）

○…立ち上がり両チーム共動きがかたく、明石6対5の攻撃ものに出来ず、明石の先取点でようやくかたさがとれ得点が動き出した。明石のポストプレーが新居浜のフェイント攻撃に勝り、8対6とリードした。

後半に入り、明石のミスが出はじめ新居浜の中間に速攻がで、11分ついに逆転、そのまま新居浜ペースで逃げ切った。（中村）

県隼人工 34（18 16／9 6）15 東邦大付
（鹿児島）　（千葉）

○…隼人工⑤の力あふれるシュート、④の出足のよい速攻を中心に、守ってはGK八千代の好守が終始みられ一方的なゲームの展開となった。東邦大付の最後まで試合を捨てないプレーは好感がもてた。（蒲山）

県総社 19（10 9／8 6）14 大曲農
（岡山）　（秋田）

○…両チーム攻撃に決め手がなく、凡ミスからの攻防のくり返しでそれをうまく得点に結びつけていた総社のリードで前半を折り返した。

秋田は後半もミスが多く自滅した感があり、また、総社のKG活躍が目立った。

総社はそのGKに助けられての勝利の感があった。（松尾）

県境港工 15（9 6／6 6）12 県石橋
（鳥取）　（栃木）

○…石橋のサイド攻撃、境港工のロング速攻で前半6対6で折り返し、後半に入っても石橋リード、境港追いつくペースで展開されたが石橋のサイドシュートが前半ほど決まらなくなり、10分過ぎから境港の切り込みに点差をあけられた。（中村）

仙台育英 27（15 12／6 10）16 県池田
（宮城）　（徳島）

○…両チーム共同じ様なタイプの攻撃を持ち前半一進一退の攻防で終了したが、後半に入ると、仙台育英の脚力が勝り、速攻、ポスト攻撃と自軍のペースに乗って池田を一方的に下した。最終的に脚力の差が勝敗の分れめとなった。仙台育英の走力勝ちと言えよう。（福田）

県岩井 15（10 5／6 5）11 鹿児島工
（茨城）　（鹿児島）

○…両チームとも立ち上がり、単調な攻めからミスをくり返した。鹿児島工は、ステップシュートが決まらずポストに頼り前半5点、岩井はサイドシュート、ロングシュートが決まり5点と互角に前半終了。

後半も鹿児島工は単調な攻めでシュートミスをくり返す。逆に岩井は堅いディフェンスからの速攻を着実に得点し常にリード。残り5分で岩井の③、④、⑤がよく走り試合を決定づけ15—11で岩井の勝利。（中村）

府三島 29（17 12／5 3）8 県大石田
（大阪）　（山形）

○…三島対大石田戦は、大石田は三島の堅いディフェンスを破る

ことができずに、ボールを横に回しながら単発なシュートを打つのみ。一方三島は大石田の横パスをカットして速攻、ブロックプレーワンフェイントのすべての技術、スピードで大石田を上回り、初戦に快勝した。（大塚）

県前原 22（10−7 12−7）14 県高島
（沖縄）（滋賀）

○…前原は②を中心によく走り速攻で確実に得点する。また、フェイントからのカットインもよく決まる。一方高島は立ち上がりミスが多く、中盤から走り始め速攻で盛り返すが7対12で前半終了。
　後半、高島は相手②をマンツーマンディフェンスで封じ3点差まで追い上げたが前原の逆速攻に合い再びリードを許す。最後まで走り通した前原がスタミナの切れた高島を圧倒した試合だった(中村)

県二俣 32（19−5 13−6）11 土佐
（静岡）（高知）

○…大型チーム同士の戦いは、立ち上がり二俣の速攻とセットから主砲の攻撃で着々と加点する。また土佐のフェイントからゴール前へ切り込み加点するが、前半残り5分のところで二俣の速攻が出て点差が離れる。土佐のパスミス、キャッチミスが目立った前半であった。
　後半に入っても、二俣の速攻がさえ着々と加点し、勝負を決定づけた。二俣のスピードに追いついていけなかった感じのする土佐であった。しかし土佐も最後までよく頑張った。（永田）

県笠田 27（12−10 15−7）17 県長岡大手
（和歌山）（新潟）

○…長岡大手対笠田戦は、前半立ち上がり長岡大手がすばらしい速攻を見せアッというまに3対0と楽勝を思わせたが、その後、攻撃が単調になり動きも鋭さがなくなってきた。一方笠田は立ち上がりの劣勢をじっくりボールを回し着々と加点する。結局、体力、走力は互角であったが、攻撃に多彩な技を持っていた笠田が初戦をものにした。（大塚）

明星 31（20−4 11−6）10 県神埼
（東京）（佐賀）

○…神埼の善戦で4対4まで進んだが、明星がサイドからのシュート等で前半なかば頃から次第にペースをつかみ11対6で前半を終了した。
　後半は全くの明星ペースになり一方的に得点を重ねた。明星GK宇田川の好守、強肩が光った試合だった。（岡山）

▽2回戦

愛知 30（16−13 14−6）19 横浜商工
（愛知）

○…愛知は③、⑤の長身を中央に置き、コンビのとれたディフェンスとゴールキーパーの好守で相手を苦しめ、攻撃でもチャンスをのがさず着々と加点する。一方の横浜商工は、体格に恵まれた選手をそろえているが力で押し切ろうとする攻撃が目立った。（東）

大分電波 22（12−9 10−10）19 県盛岡第四
（大分）

○…後半10分までミドルシュート、ポストプレー、速攻の応襲で一進一退、やや疲労のみえる盛岡がパスミス、シュートミスを繰り返す間に大分は速攻を決めて3点リードそのまま逃げ切った。両チームGKの好守も見のがせないが両チーム共、ノーマークシュートのミスが目立った。（森）

小松工 23（14−6 9−10）16 釧路湖陵
（石川）

○…攻撃に両チーム決め手がなく、北海道のサイド攻撃、小松工の速攻で得点に結びつけた試合となる。北海道は多少無理なシュートを打ちに行きキーパーに止められ、速攻に持って行かれ苦しい試合となる。又、後半の勝負どころで北海道の動きが重く小松工のペースで試合が進み、最後まで北海道のペースで試合が出来なかったように感じた。（松尾）

県青森商 23（12−10 11−11）21 県富岡
（青森）

○…両チーム共同じような攻撃展開で前半同点で終了。勝敗は後半に持ち込まれた。
　後半に入っても一進一退が続き13分過ぎに青森スカイ、ロングで2点リードするが、富岡もねばっこく攻め、再度同点としたが、21分にスカイプレーが連続して決まり富岡を振り切った。前後半を通じて11回のタイスコアーとなり目の離せないゲームであった。（中本）

県川口北 30（16−6 14−6）12 県高松商
（香川）

○…立ち上がりより高松商は、川口北のディフェンスの壁にシュートを当て川口北は腕に当てたシュートを拾って速攻、又、セット攻撃では両サイドをうまくせめて連続6点ゲット、高松商は、川口北の厚いディフェンスを破る事は出来ず単調な攻撃を繰り返すのみであった。
　後半に入っても高松は、ねばり強くポストプレーで対抗するなど前半の劣勢を取りかえす事が出来ず試合が終了した。（福田）

県新居浜工 33（19−11 14−7）18 屋代
（長野）

○…両チームともはげしい攻防で一点を争うゲームがつづいたが、20分過ぎ新居浜の⑧からのボールを⑤が見事にスカイプレーを決め調子にのり、その後、速攻やカットインが決まり14対7で前半終了。
　後半もスピードのあるゲーム展開で新居浜の速攻がビシビシ決まり試合は新居浜ペース、屋代も③がミドルシュートを決め波に乗るかのように思えたが、新居浜のスピードにディフェンスがついていけず結局パスワークとスピードに勝る新居浜の勝利。（大城）

県隼人工 24（13−7 11−9）16 県四日市工
（三重）

○…隼人工は地元の声援を受け、すばらしい立ち上がりを見せ速攻で5点先取し完全にペースをつかんだかに見えたが、四日市工もよく動き早いパスやロングシュート、速攻で必死に追い上げる。
　後半になって暑さのため動きがにぶくなった四日市工は、隼人の速攻等を許してしまい点差を開かれた。開始早々の5点が最後までひびいた試合であった。（島田）

県総社 23（3−2 4−2 9−6 7−10）20 瓊浦
（長崎）

○…瓊浦対総社の一戦は、瓊浦の速攻と総社のテクニックの戦いとなった。両者はお互いに早い球回しからはげしく動き、気合の入

HANDBALL SPECIAL

NEW

3063 標準小売価格 ¥12,000

●ボックスハイド甲皮●シェルソール●ホワイト×ブルー

3064●ホワイト×レッド

3065●ホワイト×ブラック

新登場、ハンドボールスペシャル。なぜ、「スペシャル」なのか。

あのシェルソールが、ダッシュ力、ストップ性、衝撃吸収性をアップ。

世界選手権を始め、国際大会で圧倒的な使用率を誇り、数々の栄光へ導きつづけるアディダス・ハンドボールシューズが、スポーツ科学の最新の成果を背景にさらに新たなシェルソールを装備して登場しました。その名も「ハンドボールスペシャル」。速攻性の追求はもちろん、ソールの溝は極限の倒れ込みシュートでも安定した軸足を確保。ターンを容易にする回転ゾーンやグリップ性を高める吸盤、トレフォイル(3つ葉)パターンなど、ハンドボール競技におけるフットワークの意味をマキシムまで追求し、ダッシュ力、ストップ性、衝撃吸収性をさらにアップしています。

勝利を呼ぶ3本線

adidas®

The science of sport.

KSG 兼松スポーツ用品株式会社

〒532 大阪市淀川区木川東2-5-3☎06・305-1431；〒130 東京都墨田区緑2-12-3☎03・634-1411

った攻防の好ゲームが展開された。ゲームは瓊浦の速攻がさえ終始リード続けるが、後半終了間際疲れが出て動きがにぶくなるところを総社がじりじりと追い上げ同点に終る。延長戦に入るや一進一退の攻防が続くが総社のテクニックがわずかに瓊浦の走力を上まわり総社気力の勝利だった。（大塚）

久留米工大附（福岡） 35（18―9、17―7）16 県境港工

○…大型チーム同士の対戦で興味深い一戦であったが、一歩も二歩も動きのスピードで勝る久留米は確実に得点を重ね大量得点で境港をしりぞけた。境港にもっと身長を利用した動き、スピードがあればと思われる。（大宮）

北陸（福井） 23（10―10、13―12）22 仙台育英学園

○…仙台育英対北陸の一戦は、前半両チーム共守備が甘く五角の打ち合いとなった。中盤北陸に荒いプレーが出たが気力が勝る北陸がわずかに13対12とリード。後半に入っても同様のペースで進行し、一進一退の攻防が続いたが気力の差でわずかに北陸が逃げ切った。（大塚）

九州学院（熊本） 22（11―10、11―4）14 県岩井

○…九州学院は、GK森田の好守から速攻につなぎ確実に得点をする。岩井は九州学院のディフェンスを崩せず、11対4と前半を大差で終了。

後半、岩井もよく走り、粘るが、九州学院GKの好守でPT等ことごとく阻まれ点差をつめられない。一方、九州学院は④を中心にロング、ポストで加点。後半やや疲れのでたところを岩井が走り追い上げたが、前半の失点が大きく九州学院が振り切った。（中村）

府三島 27（13―9、14―9）18 高岡向陵（富山）

○…三島は開始から3点連取し、好調なすべり出し。8分、向陵も待望の1点を取ると三島がシュートミスでもたついている間にロング、サイド、ポストシュートと多彩な攻めで15分同点とした。その後、短いパスでチャンスをうかがう向陵にパスミスがめだち、三島に速攻を決められて引き離された。後半になっても三島は速攻と池田のシュートなどで点差を広げた。（佐藤）

県日川（山梨） 20（10―6、10―6）12 県前原

○…共にスピードを基調にしたチームであるが、立ち上がりは日川のスピードリズムが優り速攻、ポストと確実に得点、前原はパスリズムが合わずいたずらにポストを多用して失敗。しかし、次第に速攻が出始め前半10対6で日川リード。

後半、日川のスピードが鈍り、立ち上がり前原に追い上げられたが13分中沢のスカイが決ってから元気をとり戻し6点連取しゲームを決定づけた。前原は後半の立ち上がり追いつくチャンスはあったがシュートミス等でチャンスをつぶしてしまった。（斉藤）

準決勝・川口北高対愛知高戦

学法石川（石川） 19（9―9、10―9）18 県二俣

○…前半10分まで学法石川のシュートミスが多く、一方二俣は⑩のロングシュートを軸にペースをつかむかに思えたが、学法石川よく走り速攻が出はじめるとセットの攻撃でもダブルポストの半面での3対2をうまく攻め、サイド、ポストとポイントをあげ10対9で折り返す。

後半一進一退の文字通りの展開となったが最後まで走り抜いた学法石川が勝利を得た。（松村）

県岩国（山口） 27（12―8、15―10）18 県笠田

○…岩国は長身の⑩を攻守の軸に良く走り、笠田の出足を封じてのスタートに対し、細かなパスからのカットインで追い上げを見せた笠田もシュートが単発になり岩国の逆速攻を許した。

後半、笠田はスカイプレーで追上げの機会を窺ったが防ぎも単調で岩国に走り負けをした。岩国の余裕あるプレーに圧倒された感じであった。（千野）

明星 28（13―10、15―3）13 県岐阜商（岐阜）

○…好ゲームが期待されたが、前半6分明星3対2とリードしてからはGKの好守で相手のシュートを封じ連続8得点するなど、一方的な明星ペースで試合が展開された。

岐阜商が後半ぐらいの試合運びであればおもしろかった。

前半あまりにもシュートをあせりすぎて自滅した感じである。（中村）

▽3回戦

愛知 24（13―7 11―11）18 大分電波

○…立ち上がり愛知は、ロングシュート、速攻により5点連取し主導権を握り、その後もロング、ポスト、速攻等多彩な攻撃で加点する。これに対して大分電波は、愛知の大型ディフェンスを崩し切れず苦しい体勢でのシュートが目立った。後半に入り、大分電波の動きが速くなり3点差まで縮めるが今一歩というところであった。（中本）

県青森商 31（12―9 19―9）18 県小松工

○…立ち上がり小松工は、青森商の大きい身体のカットイン、ポストへのパスにとまどいを見せたが、次第にディフェンスのピストンが出来るようになり得点を半減させ、逆転可能な12対9まで追い上げ前半終了。

後半小松は、ディフェンスでのスタミナ消耗から本来の切れ味の良い動きが鈍り力つきた。青森は大型でスピードのある好チームだがセットプレーでのスピードが加わると鬼に金棒かと思われる。（斎藤）

県川口北 26（14―9 12―8）17 新居浜工

○…両チーム共同じような攻撃パターンであるが、新居浜工はやや攻撃が単調で守ってはつめが甘く川口北に加点を許す。川口北も攻撃ではミスが目立ったがディフェンス面で新居浜工に勝り勝利を得る。（東）

県隼人工 22（9―6 13―8）14 県総社

○…隼人は左右展開からのカットインとポストプレーを攻撃の主体に使って加点すれば、総社は上3人のズラシとクロスプレーと速攻とで加点した。前半から終始リードの隼人と追う総社の力の差はロングシュートの良さであった。

後半、ラフプレーが両チームに多く見られたのは残念であった。走りに一歩力のある隼人が楽勝した。（千野）

久留米工大附 36（18―10 18―6）16 北陸

○…立ち上がりより総合力に勝る久工大附は多彩な攻撃で着実にゲットを続けた。一方、北陸は②の長身を利したシュートで対抗するも全員が同等のレベルを有する久工大附には力が及ばず、一方的な試合展開で敗れた。（福田）

府三島 23（10―6 13―11）17 九州学院

○…両チーム共、早いボール回しと細かいテクニックを駆使し、激しいゲームを展開したが、三島の攻撃が相手ディフェンスとせり合いのシュートが実にうまく一日の長があった。又、両チームGKが再三のノーマークを好守しゲームを盛り上げた。両GKの健闘が光った。（大塚）

準決勝・久留米工大附高対明星高戦

県日川 20（9―11 11―5）16 学法石川

○…両チーム、スピードがあり好試合であったが、白川が得点に結びつけたのに対して、学法はシュートミスが多く涙をのむ。白川のGKの好守が光った。（松尾）

明星 16（9―6 7―3）9 県岩国

○…テクニックとパワーをそなえた両チームの激突は、前半立ち上がり機械のように正確なセットプレーで岩国リードすれば、明星たちまちスピードに乗った速攻で逆転、岩国は明星のツメの速いディフェンスに歯車を狂わされ攻撃がリズムに乗らず、明星のスピードに乗ったプレーの前に姿を消した。両チームGK共、再三のシュートを好守しゲームを盛り上げたが特に明星のGK好守が光った。（大塚）

▽準々決勝

愛知 22（12―9 10―12）21 県青森商

○…スローペースの立ち上がりに見えたが、青森の大型選手に愛知がとまどい15分までは青森がリード、15分からは青森の動きが止まりハンドリングも悪くなり、愛知の速攻がきまり3点リードで前半終了。

後半は、両チーム共1点を争うゲーム展開となったが、共に動きが悪く個人プレーにかたよりお互のミスが目立ったが何とか愛知が逃げ切ったゲームであった。（大城）

県川口北 26（11―9 15―10）19 県隼人工

○…川口北は、小さな動きからポストにボールを通してリードを奪い、対する隼人工はミドルシュートを中心にカットイン等でゲットし、これを追うという展開で前半を終了。

後半に入ってもペースは変わらず川口北はポスト、ミドルで確実に加点。隼人はエース窪田のミドルで必死に追い上げるも及ばず、そのまま終了した。隼人は後半20分頃、相手パスをカットしたノーマークの速攻を2本ミスしたのがひびいた。（岡山）

久留米工大附 28（12―5 16―5）10 府三島

○…体格にまさる久留米は、常に縦パス速攻と、ダブルポストのセットオフェンスを併用し、ダイナミックに攻め立て余裕と力を示した。三島は、小さな鋭いゆさぶりで攻撃に特色を示したが、シュートチャンスの数に差がありすぎて常に後手をとり有効打とはならず、結局は安定した攻法（セットオフェンス）を持つ久留米の圧勝となった。（光島）

明星 25（13―6 12―4）10 県日川

○…日川PTで先取点するが、明星早い展開でロング、ポストプレーで得点を重ね、大きくリードしねばる日川をつきはなした。明星の大小の速攻はすばらしく足を使ったリズムハンドボールは目を見張るものがあった。なかでも⑥の動き、②のリードが光った。尚、日川も決して大型チームではない

が最後までよく動き好感のもてるチームであった。残り8分になり大雨が降り出し試合を中断するアクシデントにみまわれ体育館に移動し再開した。（大宮）

▽準決勝

県川口北 23（10−6　13−11）17 愛知

得	【川口】		【愛知】	得
0	金子忠	GK	久野	0
0	三原	GK	野田	0
5	金子信	FP	櫛田	1
4	清野	FP	岡田	7
7	網代	FP	堀江	2
1	勅使河原	FP	澤田	0
0	大山	FP	岡本	0
0	荻原	FP	大谷	1
1	下田	FP	佐竹	2
0	原田	FP	伊藤	3
2	吉岡	FP	服部	1
3	木村	FP	後藤	0
24	（0）	PT	（2）	17

（審・松尾、福田）

○…愛知スローオフではじまりお互いにジャンプからポストに入れるゲーム展開と、速攻による攻撃で、一進一退をくり返す。愛知は攻撃の中心選手⑤が足の故障で欠場したのがいたく川口に思うようにディフェンスされ、川口は速攻からスカイプレーと得点を重ね愛知を振り切った。

川口のGK三原君のプレーは光った。（大宮）

久留米工大附 17（8−10　9−6）16 明星

得	【久工附】		【明星】	得
0	秋吉	GK	宇田川	0
0	中村	GK		
2	片山	FP	桜井	3
2	中村	FP	北沢	1
1	田中	FP	沢田	0
2	有村	FP	篠	1
0	千綿	FP	郡司	6
4	馬場	FP	目黒	5
0	永松	FP	小柳	0
3	高須	FP	浜川	0
2	坂田	FP	佐藤	0
1	永延	FP	滝瀬	0
17	（1）		（1）	16

（審・大塚、光島）

○…走力、シュート力共互角のチーム同士の対戦としては一つのミスすら許されなかった。

緊張の続く攻守は、好プレーを随所にみせ準決勝にふさわしいものだった。

明星は、まわり込んでの左、右2本のロングシュートを逆のひっかけで下の位置に良く決め、又、GKの好守を速攻へとつないだ。

一方、久工大附も45度のロングにポストが合わせたり、相手ミスを速攻につなぎ、後半17分には同点、20分には逆転した。

その後、いったん明星に同点にされたが再度つき離し熱戦に終止符を打った。（千野）

決勝戦・久留米工大附高対川口北高戦

▽決勝

久留米工大附 24（13−6　11−9）15 県川口北

得	【久工附】		【川口】	得
0	秋吉	GK	金子忠	0
0	中村	GK	三原	0
6	片山	FP	金子信	0
4	中村	FP	清野	7
0	田中	FP	網代	4
5	有村	FP	勅使河原	0
1	千綿	FP	大山	0
2	馬場	FP	荻原	0
0	永松	FP	下田	2
2	高須	FP	原田	0
2	坂田	FP	吉岡	1
2	永延	FP	木村	1
24	（0）	PT	（1）	15

（審・斉藤、千野）

○…立ち上がり少々動きが鈍かった久工附も本来の力を発揮し、多彩な攻撃で点差をつけた。

なかでもGK秋吉の巧守は眼をみはるものがあり、相手の速攻、ノーマークのポストシュート、ペナルティースロー等再三阻止し、チームの盛り上りに大きく貢献した。川口北も、持前のボール回しからポストに落とすコンビプレーを試みるが、厚いディフェンスにはばまれ散発的に点を入れるにとどまった。

川口北の③の健闘が光った。終始一貫して、久工附の厚みのある試合展開だった。

しかし最後まで全力を尽くす川口北のプレーも好感がもて、すがすがしいものであった。（蒲山）

フットワークはフォーメーションから生まれます。
だれが駆けても、

シティは、スポーツマン。

ライヴ・ビークル
「シティ」

HONDA®

女子

▽1回戦

仁愛女（福井）13（8－4、5－6）11 県吉井（群馬）

○…前半10分過ぎまでは手の内の探り合いで3対3と互角であったが、15分頃から仁愛⑬のフェイントによる中央突破などで一気に8対4とリード。

後半に入っても仁愛ペースで進み、13対7と大勢が決まった後、残り3分から吉井も3点連取、追い上げたが及ばなかった。（古富）

県小林商（宮崎）13（8－4、5－3）7 市新居浜商（愛媛）

○…前半小林商は③を中心によくセットで攻め、③のロング、サイドからのシュート、フェイント、カットインと大活躍。新居浜はロングシュートを多く打つも入らず頼みの速攻もシュートミスでつぶした。

後半に入っても小林の③が多彩な活躍でポイントを上げ、加えて速攻も決り出した。新居浜はあせりがディフェンス面で見られ、ラフになり退場者を出すなどのり切れなかった。何とかフォメーションで活路を見い出そうとするが、反則が出て点につながらなかった。（松村）

県佐世保商（長崎）15（3－8、12－3）11 県高松南（香川）

○…高松南は②の好シュートで着々と加点、逆に佐世保商はせっかくのノーマークもラインクロスで外し、5点差で前半終了。

後半開始早々佐世保商は速攻で3点連取、これで勢いづき前半の5点差をはね返し勝利を収めた。

それにしても、高松南は後半バテ気味で走りがなかったのが敗因である。（長野）

成美学園女（神奈川）18（8－4、10－6）10 県青森西（青森）

○…青森西の長身を利してのロングシュートを主としたオフェンスに対し、成美学園は早いパスワークからのカットイン、ポストを中心としたオフェンスで全くタイプの違うチーム同士の対戦であった。

青森西の再三のロングシュートも成美のキーパーに好捕され、得点は意にまかせずじまいに終わった。一方成美は早いパスワークからのカットイン、ペナルティー等で着実に加点し、勝利をものにした。

点差は開いたが、両チームともきびきびした動きで感じのいいゲームであった。（南）

盛岡第二（岩手）22（7－3、15－2）5 県米子南商（鳥取）

○…前半盛岡は好ディフェンスから速攻に結びつけ、7対4でリードする。

一方米子南は組織的なつなぎプレーが少なく、単独プレーするところを盛岡につけこまれて得点を許した。

後半に入ってもペースは変らず5分で13対4、10分で17対5と大差となった。

盛岡の走り勝ち。（古富）

県日川（山梨）13（7－2、6－6）8 県彦根南（滋賀）

○…前半、日川はダブル・ポスト攻撃で左右に大きく彦根ディフェンスをゆさぶり、ポスト・サイドのシュートを決めてリードした。

後半、彦根南はカットイン、フェイント、スカイプレーと多彩な攻めとキャプテンの頑張りもあって互角に戦ったが、前半の5点差を埋めることは出来なかった。（森）

小松市女（石川）19（10－4、9－4）8 県前原（沖縄）

○…立ち上がり両チームともやや堅さが見られたが、小松市女のサイドからの攻撃が冴え、次第に差を広げた。

前原もポスト、サイドから反撃したが、差をつめるには至らなかった。（岡山）

暁（三重）16（7－6、9－1）7 東宇治（京都）

○…前半は互角の戦いで、ともにディフェンスの間を上手に抜いたシュートが目立った。後半は暁の走り勝ちで大差をつけた。東宇治は足が止まり、ディフェンスにも甘さが目立ち出した。（本多、永田）

熊本女商（熊本）18（7－6、11－3）9 県有磯（富山）

○…大型チームの有磯と先の九州大会優勝の熊本女商との対戦は立ち上がりから一進一退の攻防をくり返したが、後半に入り総合力に勝る熊本が持ち前の粘りを発揮し大勝した。

有磯は、前半の勝負どころで二度の退場を受け、熊本にゆとりを持たせたのが敗因といえるだろう。（大宮）

松江市女（島根）13（6－5　5－6　1－1　1－0）12 涌谷（宮城）

○…前半相方とも速いパスワークから松江市女は相手ディフェンスの間を攻め、ずらして右サイドから飛び込み好シュート、またポストプレーとセットで得点する。涌谷も速攻で良く走るが、シュートがいま一つまずく、1点差で折り返す。

後半、松江はたてブロックの形で得点を重ねるが、涌谷はロングが決まり、フローターから対角のポストへパスが通り始めシーソーゲームとなり同点で延長に入る。

延長に入り相方チャンスがあったが、フォーメーションを決めた松江が勝利をものにした。（松村）

県大曲農（秋田）18（13－4　5－5）9 小諸商（長野）

○…大曲農は、速攻のチームらしくよく走り、得点に結びつけて前半で大差をつけた。小諸商も最後まで頑張ったものの、走力の差がそのまま点差となった。（島田）

県牧園（鹿児島）14（7－3　7－2）5 県本巣（岐阜）

○…立ち上がり1分、本巣がサイドシュートで先行、10分過ぎまでは先行していたがここで足が止まった。牧園は速攻、②のロングシュートで逆転、4点リードで前半を終了した。

後半に入っても牧園は②、③の長身を活かしたロングシュートで着々と加点。一方、本巣の攻撃はセンターにかたまり、シュートが長身のディフェンスにカットされてしまった。（中本）

藤村女（東京）12（4－3　8－0）3 県神埼農（佐賀）

○…前半はお互いに攻めあぐんだ感があったが、後半になると藤村はよく走り、着々と得点を重ねたのに対し、神埼はミスが目立ち自滅したと言えよう。神埼のペナルティーの失敗が目についた一戦であった。（宍戸）

県郡山女（福島）17（8－4　9－1）5 県新潟江南（新潟）

○…新潟はコンビネーションプレーが少なく、相手の固いディフェンスに阻まれ攻めあぐむ。一方郡山女もこれといって攻め手はないがディフェンスは良く、相手に加点を許さない。

後半に入って、郡山女は相手の攻撃の帰りの遅い所をついて速攻で着々と加点、大きく差をつけた。（東）

市立川口女（埼玉）12（5－4　7－7）11 函館女商（北海道）

○…立ち上がりロングシュートなどで函館女商が3－1とリードしたが、ポスト、カットイン等で川口女が逆転、5－4で前半を終了した。

後半に入ってロングでペースをつかんだ函館が再び10－7とリード、勝負あったかに見えたが、川口は⑦の活躍で12－11と再度逆転そのまま押し切った。函館はGKのけがが惜しまれる。（岡山）

県粉河（和歌山）31（12－3　19－3）6 高知東（高知）

○…全ての面で粉河が一枚上で試合を進めたと言えよう。

粉河はよく走り、多彩な攻撃で得点を重ねたのに対し、高知東は粉河の固い防御に阻まれ苦戦した。点差は開いたが、最後まで高校生らしく元気一杯のプレーを展開した両チームの態度は賞讃に値する。（松本）

▽2回戦

名古屋短大付（愛知）19（11－3　8－7）10 仁愛女

○…名短付は、終始スケールの大きなパスワークと鋭い動きで仁愛女を圧倒した。

名短付は③の速攻と好シュート、GKの判断のよいボール出し等が光った。仁愛女の後半の食い下がりは好感の持てるものだった。（蒲山）

県小林商 20（10－4　10－8）12 県添上（奈良）

○…前半、スピードに勝る小林が速攻、サイド、フリースローからのロングシュートと多彩な攻撃で添上を圧倒。

後半に入って添上も足の止った小林によく食い下がり、必死の反撃を見せたが、残り5分位からシュートミスからの速攻を許し、20－12でゲームセット。

暑さの中での練習量の差が得点に表れた試合だった。（野中）

強豪・小松市女は準々決勝で敗れる

県総社（岡山）16（7－2　9－4）6 県佐世保商

○…立ち上がり速攻などで総社が着実にリードを奪い、総社のペースで展開された。佐世保商は、ボールが手につかず、パスミスなどで攻めあぐみ、2－7とリードされて前半を終了。後半に入ってもペースは変らず、総社は控え選手を使う余裕を見せ、そのまま押し切った。（岡山）

成美学園女 13（4－6　9－6）12 国分実業（鹿児島）

○…両チームともよく足を使って好スタートを切る。前半10分頃まで4対4で動きの激しい好ゲームとなったが、シュート力とチャンスを確実に加点した国分実が2点差を保ち前半を終わる。

後半に入っても両チーム共動きが衰えず好ゲームとなったが、後半成美学園女が国分実を上回る攻撃を見せ、終了1分前に決勝点をあげて逆転勝ち。（高橋）

県盛岡第二 18（8－4　10－8）12 県富岡東（徳島）

○…小柄チームの対戦で走りに注目した。

予想通り両チーム共よく走り、

前半互角の展開となったが、先に足が止まったのは富岡東だった。盛岡は前、後半をフルに走り、ロングシュートとポストプレーで追いすがる富岡東を突き放した。盛岡の攻撃には見るものがあるが、ポストのディフェンスに一考を要す。（森）

県日川　13（7－1、6－2）3　県佐賀関（大分）

○…立ち上がり再三の好機をシュートミス等で逃した日川は、7分過ぎにカットインからの得点をあげると、速攻、コンビネーションのとれた動きから着々と加点。一方佐賀関は、動き、パス共にスピード不足で容易に突破口を見出せず、つまってからの無理なシュートが多くなかなか得点出来ず、前半終了間際に1点をあげた。

後半、佐賀関が先手をとったものの動きに変化なく、日川②を中心としたオフェンスを防ぎ切れず一方的なゲームになってしまった。（東屋敷）

小松市女　26（14－3、12－3）6　米沢女（山形）

○…速攻、サイド、セットのコンビプレーと多彩な攻撃をする小松市女に対し、米沢女も果敢にカットイン、ロングと攻撃をしかけるが、小松の好ディフェンスに阻まれ大差となる。最後まで走り抜いた米沢の健闘をたたえる。（古富）

水海道第二　12（6－2、6－9）11　暁（茨城）

○…立ち上がり暁は水海道の⑤にマンツーマンでつく作戦に出たが、相手のスピードを止めることが出来ず、じりじりと得点を許す。大型の水海道は、スピード、パワー共に優れており着々と加点、暁も4本のペナルティーを得たが2本しか入らず、その点だけで前半を終える。

後半暁はディフェンスに工夫をこらし、水海道の攻撃を止め加点したが及ばなかった。最後まで気の許せない熱の入ったゲーム展開であった。（永田）

昭和学院　15（8－7、7－7）14　熊本女商（千葉）

○…2回戦屈指の好カード。熊本のロング中心の攻撃に対しゴールエリアライン際のコンビプレーの昭和が前半僅かにリードする。後半に入り両チームの動きが一層激しくなる。熊本が必死に追い上げ、残り1分2点差を1点差としたが及ばなかった。

昭和の④を中心としたコンビプレーの勝利。（古富）

県明石　18（12－3、6－7）10　松江市女（兵庫）

○…前半5分までは互いに相手の様子をうかがい2対2であったが、その後明石のルーズボール等の処理から速攻が決まり、着々と加点する。特に相手ゴール前のシュートに結びつける走力は鋭いものがある。

後半に入り10分までは松江が着々と得点、後半5対1と追い上げを見せたが、明石もすぐに反撃、続く5分程の間に6対6とする。この間、特に明石④の速攻が目立った。（永田）

県大曲農　15（7－6、8－6）12　東海大第五（福岡）

○…大曲農は⑥のロングで好スタート、その後も相手の反則を速攻でつなぎ加点する。一方東海五は④のステップシュートをおりまぜ、早い攻めでポストにつなぎ互角で前半を終了。

後半大曲農は固いディフェンスから速攻で着実に加点、東海五を突き放した。

しかし、お互いにやや粗いディフェンスとなり、東海五もそのスキを突き粘り腰を見せたが一歩及ばなかった。（中村）

県牧園　20（8－7、12－3）10　国学院大栃木（栃木）

○…前半は両チーム共取られたら取り返すという一進一退のゲーム展開が続き1点差で終了。後半開始5分間に牧園の速攻やロングが決まり出し一気にリード、その後も着々と得点を重ねて粘る栃木を突き放した。（髙橋）

藤村女　15（6－2、9－10）12　大谷（大阪）

○…前半、藤村はよく走り得点を重ねたのに対し、大谷はミスが目立ちリードを許した。しかし、後半に入り大谷は動きがよくなり10分過ぎには10対10と追いついたが、最後力及ばず突き放され敗退した。大谷は前半のペナルティーのミスがくやまれる一戦であった。（中村）

県郡山女　12（6－4、6－6）10　県徳山商（山口）

○…前半両チーム共パスミス、シュートミスが目立ち、大事な時に凡ミスするケースが随所に見られた。

後半、両チーム共よく動くけれど速攻時のパスミスが多く得点に結びつかない。荒削りなプレーの感があった。結果的には、前半2点リードした郡山がそのまま振り切った形となった。（蒲山）

県静岡城北　14（6－3、8－7）10　市立川口女（静岡）

○…立ち上がり両チーム共シュートミス、ラインクロス、パスミスが出てなかなか得点が取れなかったが、10分過ぎから城北の速攻が決まり出して前半を終わる。

後半、川口が開始間もなく点差をつめるかに思われたが、城北のGKの好守に阻まれてそれが出来ずに時間が来てしまった。特に両チーム共ディフェンスの甘さがあり、ペナルティースローが多く見られた。（井上）

山陽女　16（7－4、9－4）8　県粉河（広島）

○…立ち上がり山陽が得点をあげれば、その後すぐ粉河が反撃、10分過ぎから山陽はカットインから着実にポイントをあげ、前半は7対4で終了。

後半、山陽は立ち上がり4点連取して突き放し、後は速攻、カットインプレーと山陽ペースで試合を終了。

2年生ながら6得点をあげた山陽の中嶋の動きが良かった。（西花）

▽3回戦

名古屋短大付 20（10—5 / 10—2）7 県小林商

○…名短付は②の角度のあるシュートを軸にポスト、速攻をおりまぜ、5対0とリード、主導権を握った。一方小林は、13分過ぎから右サイドからたて続けに3本返し、左サイドからのシュートも決め、10対5で前半を終了。
後半に入り、名短付はペナルティー2本を決めて波に乗り、ロング、ポスト、速攻と攻撃の手をゆるめず、そのまま差を広げた。名短付は⑦、④の2度の退場があったが、代って出場した控え選手が活躍、層の厚さを感じさせた。（岡山）

県総社 14（6—2 / 8—7）9 成美学園女

○…共に5分まで得点が取れずにいたが、総社の速攻が決まり、その後着実に加点、成美はボールを回して入るがディフェンスに阻まれシュートが打てず6対2で前半を終了。後半は成美がペナルティーを決めて先取、互角の戦いとなったが前半の差が大きくそのまま逃げ切った。（大城）

県日川 13（4—4 / 9—2）6 県盛岡第二

○…長身チーム日川と小型な盛岡との対戦になる。
3分、日川は速攻によるポストシュートに続き土橋の中央からロングシュートを決めれば、盛岡も堀米、藤村を中心に速攻を決め同点のうちに前半を終わる。
後半に入っても日川のロングシュートに対しゴール前での早い動きとパスワークを主体に攻撃し好試合となったが、身長、体力に勝る日川が保坂を中心に確実に点を入れベスト8に進む。（高橋）

小松市女 11（6—2 / 5—4）6 県水海道第二

○…時間いっぱい走り回る両チーム。その中でボールのつなぎの差が得点に表れた。
立ち上がりフリースローからの2得点で調子にのる小松は、⑥、③のロングシュートも効果的に決まり前半をリード。後半に入って水海道のディフェンスも固くなり小松も攻めあぐみ、結局前半の点差をほとんど開くことなく終了。
両チームのきびきびしたプレーが好感が持てた。（東屋敷）

県明石 12（6—5 / 6—6）11 昭和学院

○…立ち上がり両チーム共堅く大切なところでキャッチミス、シュートミスが目立った。前半は、明石のボール回しからのタイミングを得たステップシュートと昭和の連続4点のポストシュートで一進一退となる。
後半立ち上がり、昭和は明石のエース②にマンツーマンでつくディフェンスをとるも、速攻で加点明石はリードを守って逃げ切った。
最後まで気を抜けない、力の接近したゲームで盛り上がった。（永田）

決勝戦・日川高対山陽女子高戦

県牧園 11（6—4 / 5—6）10 県大曲農

○…地元牧園はすべり出し速攻で先取点を入れ、その後も加点し引き離すかに見えたが、大曲も食い下がり、1点差までになったが牧園もよく落着いて攻守し振り切った。
大曲も最後までファイトを出し素晴らしいチームであった。（大宮）

藤村女 16（9—3 / 7—5）8 県郡山女

○…前半、郡山パスが回らずシュートは藤村のGKに阻まれ、なかなかチャンスをつかめない。一方藤村はサイドの安木と加藤がよく走り、GKからのパスを受けて着実に得点をあげた。
後半に入り郡山もようやくペースをつかみシーソーゲームを展開したが、前半の点差が大きくひびいた。（西花）

山陽女 13（7—5 / 6—4）9 県静岡城北

○…両チーム共早い動きと早いパスで好プレーを展開したが、山陽の鋭いカットインに対して城北が守り切れずペナルティーを多くとられ前半山陽がリード。
後半に入って城北に退場者が出て山陽はこのチャンスを確実にも

テーマは「人間と機械」
OMRON
いらっしゃいませ
お引出
ご預金
通帳記入
残高照会
ご送金
ご用件のキーを1つ
お押しください
＊押さずにカードを
お入れになりますと
お引出になります
人間と機械との対話。
機械化、無人化がすすみ、人間と機械との関わりあいが深まるにつれ、より扱いやすく、より親切な機械の開発が望まれてきました。目から、耳から、人間との対話をはかろうとする試みがそれです。
すっかりおなじみになった銀行の機械化コーナー。そこでは、CRTを採用した操作案内で、きめ細かなメッセージをおとどけしている支払機や預金機が。レストランでは、表示・レシートをもカナ文字ででてくる電子レジスタが…。
このように、オムロンは"人間と機械との対話"を推し進めながら、その新しい歴史をつくっています。
OMRON小形現金自動預金支払機
預金・支払・両替・記帳・残高照会…など、
目的にあわせて、CRTでわかりやすく操作案内。
だれもが間違いなくスムーズに使いこなすことができます。
OMRON
800
OMRON電子レジスタ591-IRC
価格だけでなく、カナ文字で品名をも表示、
さらにレシートにも同じカナ文字で印字。
明瞭で気もちよい会計が行なえます。
OMRON
立石電機
立石電機株式会社
〒616京都市右京区花園土堂町10
TEL075(463)1161大代

のにして突き放した。見応えのあるゲームであったが、城北の荒いディフェンスが敗因であった。（島田）

▽準々決勝

名古屋短大付 14（6－5 8－6）11 県総社

○…立ち上がり名短付はいいリズムで攻撃をしていくが、パスの中継が悪く、総社にパスカットされ自ら苦しい試合となる。
　後半速攻のつなぎが不安ながら得点に結びつけた名短付が有利な展開となったが、総社もよく頑張って食い下がる。しかし、肝心のところで動きの重くなった総社は痛いところで得点を許して敗退。（松尾）

県日川 11（6－5 5－3）8 小松市女

○…立ち上がり様子を伺う両チームは、シュートチャンスなく攻守を変えるミスプレーが続いたが3分日川がステップシュートで均衡を破ってから両チームよく走りシーソーゲームとなる。日川はディフェンスを一線に引き小松の細かなプレーをよく制す。攻撃もよくボールが回りシュートチャンスも多くあったが、GKの好守により思うほどの加点が得られなかった。小松は1・5の守備からGKの好守を速攻に結びつけ得点を重ね、後半14分に逆転。しかし、日川は保坂、沼田の45度のカットインとGK日原の好守で再逆転、粘る小松を振り切った。（千野）

県牧園 12（7－5 5－5）10 県明石

○…前半明石はポストプレー、牧園は③のロングシュートとお互いに自チーム持ち前のプレーで攻防をくり返し、7対5と牧園2点リードで折り返す。
　しかし、後半立ち上がり明石はポストプレーで連続2点をあげ同点とする。7対7の同点を抜け出したのは明石、しかしすぐに牧園はミドルシュート、明石のパスミスからの速攻で逆転、2点をリードして押し切った。（福田）

山陽女 13（5－3 8－4）7 藤村女

○…前半両チーム両パスミスが目立ち、盛り上がりに欠けた試合展開。時折、共にポスト・サイドからのシュートが散発的に決まっていた。山陽女が⑩のポストプレー等によるシュートで確実に得点を重ね点差を開いた。山陽女の⑨、藤村女の⑨両者の力あふれるプレーは好感が持てた。（蒲山）

▽準決勝

県日川 12（8－5 4－6）11 名古屋短大付

得	【日川】		【名短付】	得
0	日原	GK	田中	0
0	横内	GK	小畠	0
4	保坂	FP	森山	2
5	沼田	FP	石田	2
0	三森	FP	稲垣	4
1	小菅	FP	渡辺	1
0	土橋	FP	高瀬	0
2	小沢	FP	長谷川	2
0	南	FP	成田	0
0	荻原	FP	御厩	0
0	丸山	FP	奥村	0
0	小泉	FP	城	0
12	(1)	PT	(2)	11

（審・大宮 島田）

○…立ち上がり名短付の凡ミスが続き、そのミスをついて日川はゲット、前半8対5と日川のリードで折り返す。しかし、名短付は後半すぐに同点に追いつきシーソーゲームとなる。10分過ぎ日川がすぐにリード、名短付も執ように食い下がるが遂に追いつくことが出来なかった。（福田）

山陽女 11（5－0 6－1）1 県牧園

得	【山陽女】		【牧園】	得
0	永岡	GK	竹下	0
0	山口	GK	堀之内	0
4	石田	FP	前田	0
2	山田	FP	山内	1
0	矢舗	FP	岡村	0
1	長谷部	FP	宮原	0
0	山崎	FP	古川	0
0	住田	FP	中野	0
2	矢田	FP	大村	0
2	中嶋	FP	谷口	0
0	藤中	FP	米丸	0
0	佐々木	FP	地頭	0
11	(1)	PT	(0)	1

（審・斉藤 千野）

○…開始直後のエリア前のノーマークを2回続けてラインクロスにより失敗してからというものは完全にゲームの流れは牧園にとって苦しいものとなり、やることなすことすべて逆目に出て攻防に厚さがなくなったのに反し、山陽はソツなく先取点を取り、対照的な雰囲気となった。
　牧園は②、③のロングシュートもバーに当る不運もあり、防御も出足を欠き、山陽はこれといって目立つプレーヤーがいないにもかかわらず、相手の拙攻に助けられた形となって完勝した。（光島）

▽決勝

県日川 11（6－5 5－4）9 山陽女

○…開始5分、沼田のロングで日川が先行すれば、山陽は石田、中嶋のカットインですぐ逆転、一進一退の展開となったが、前半終了間ぎわ日川がペナルティーを決めて6対5と1点リードで折り返した。
　後半に入り日川は更に2点連取、主導権を握ったが、山陽もカットイン、ペナルティーで追い上げ、17分に1点差までつめた。しかし日川はタイムアップ寸前に沼田のゲットでダメを押し、初優勝を飾った。
　日川・保坂の切れの良い動きと山陽・中嶋の素早い動きが印象に残った。（岡山）

得	【山陽女】		【日川】	得
0	永岡	GK	日原	0
0	山口	GK	横内	0
2	石田	FP	保坂	4
1	山田	FP	沼田	5
0	矢舗	FP	三森	0
0	長谷部	FP	小菅	1
0	山崎	FP	土橋	0
0	住田	FP	小沢	0
0	矢田	FP	南	0
4	中嶋	FP	荻原	0
2	藤中	FP	丸山	1
0	佐々木	FP	小泉	0
9	(1)	PT	(2)	11

（審・光島 大塚）

日川のGK・日原選手のプレー

L・プラハ国際招待

プラハ強し！
―大同特殊鋼も敗れる―

チェコのクラブチーム「ロコモティブ・プラハ」が来日、7月5日から20日まで、日本各地で8試合を行い、7勝1敗の好成績を収めて帰国した。

L・プラハはチェコの二部リーグ所属のチームで、〝国際親善〟をチームモットーに海外での試合経験豊富で、日本でもトップチームの大同特殊鋼を破る強さを見せた。しかし、日本チームでは千葉教員がよく善戦、見事に接戦をせり勝って一矢を報いた。

▽7月7日
（富岡高校体育館・群馬）

L・プラハ 31（16―15、15―8）23 あかぎク

○…あかぎクのGK・譲原がダイレクトで相手ゴールに得点をあげるという波乱の幕明けとなった。しかし、L・プラハも次第に落ち着きをとりもどし、多彩な戦法を見せてあかぎクのディフェンスをゆさぶり、前半を15―8と大きくリード。

得	【プラハ】		【あかぎ】	得
0	フィチェック	GK	野口	0
0	シュレイバー	GK	譲原	1
4	トメク	FP	高梨	3
9	ストラカ	FP	山口	2
1	ヒブス	FP	工藤	0
7	ハトル	FP	堀越	1
0	ノバク	FP	石井	2
2	ポラセク	FP	越石	6
0	マイヤル	FP	桜井	0
0	ロマンチン	FP	今井	2
4	チューマ	FP	岡田	2
4	チュンプル	FP	栗田	4
31	（5）	PT	（4）	23

（審・浅川、町田）

後半に入って、プラハがGKを控えのシュレイバーに替えたスキを突いてあかぎクも猛反撃、一時は3点差まで詰め寄ったがそこまで。プラハは再びGKをフィチェックに替え、大型チーム（平均身長一八三cm）らしからぬ力と技の攻めを見せて粘るあかぎクを突き放した。

▽7月9日
（古河市立体育館・茨城）

L・プラハ 51（27―15、24―8）23 自衛隊古河・第一施設大隊

○…力の差は如何ともしがたく前半から大差がついてしまった。

得	【プラハ】		【自衛隊】	得
0	シュレイバー	GK	松浦	0
0	フィチェック	GK	西山	0
5	チューマ	FP	富永	3
6	ヒブス	FP	池田	7
6	ロマンチン	FP	長原	0
1	ドボラク	FP	国田	0
1	デジッチ	FP	綱野	0
12	ハトル	FP	滝	1
2	ストラカ	FP	諏訪	2
12	トメク	FP	片田	3
3	ノバク	FP	赤間	7
1	マイヤル	FP		
51	（3）	TT	（4）	23

（審・広沢、斎藤）

（自衛隊）阿部、片野、篠本、竹原（得点0）（プラハ）ベラン、ポラセク（0）チュンプル（2）

それでもプラハはプレーをゆるめることなく、堅実な攻撃を見せ、実に51得点という大量点をあげた。自衛隊古河も池田、赤間を中心に46歳の大ベテラン富永も大健闘を見せたが、力及ばなかった。

▽7月10日
（市川学園高校体育館・千葉）

千葉教員 31（15―11、16―16）27 L・プラハ

○…前半開始早々から互いに互角の打ち合いを展開。千葉は5分過ぎから植村、浅原、松井と3連続ゴールをあげ5―2とリード。その後のプラハの反撃をGK・釜谷が再三にわたって好守を見せて防ぎすっかり波に乗った。こうして前半を15―11と千葉が4点リードで終了。

得	【プラハ】		【千葉】	得
0	フィチェック	GK	釜谷	1
0	シュレイバー	GK	大鐘	1
1	チュンプル	FP	松原	0
0	デジッチ	FP	内記	0
5	ハトル	FP	八重盛	1
1	ヒブス	FP	上坂	0
1	ノバク	FP	植村	1
4	ポラセク	FP	浅原	7
1	ロマンチン	FP	永海	1
7	ストラカ	FP	山上	0
7	トメク	FP	仲田	4
0	チューマ	FP	大松	0
		FP	松井	15
27	（4）	PT	（3）	31

（審・中島、小川）

後半に入ってプラハも懸命の反撃を見せたが、千葉はベテラン氷海がよく守りをまとめ、このプラハも猛攻を防ぎ切り、日本側に貴重な1勝をもたらした。

▽7月11日
（水海道二高体育館・茨城）

L・プラハ 41（19―7、22―4）11 筑波振球会

得	【プラハ】		【振球会】	得
0	シュレイバー	GK	岡野	0
0	フィチェック	GK	香川	0
5	チューマ	FP	菊田	2
4	ヒブス	FP	福永	4
3	ロマンチン	FP	中村	3
0	デジッチ	FP	松岡	2
3	ハトル	FP	篠崎	0
10	ストラカ	FP	酒井	0
7	トメク	FP	安田	0
3	ノバク	FP	雫	0
2	マイヤル	FP	中山	0
4	ポラセク	FP	田中	0
41	（5）	PT	（0）	11

（審・岡本、清水）

○…前日千葉教員に苦杯を喫したL・プラハに〝若さ〟の筑波振球会が挑戦。しかし、プラハは気迫のこもった試合ぶりで、若さが逆に空回りした感じの筑波振球会を先取点こそ許したものの、すぐに3―1と逆転、以後着々とリードを広げ、19―7と前半で勝負を決めた。

筑波は、国際試合未経験のためもあってか本来の動きが発揮出来ず、後半も一方的に攻めたてられて〝大敗〟した。

▽7月13日
（横浜文化体育館・神奈川）

L・プラハ 29（17―11、12―7）18 全中大

得	【プラハ】		【全中大】	得
0	シュレイバー	GK	井上	0
0	フィチェック	GK	田村	0
4	チューマ	FP	蒲生	4
0	ヒブス	FP	花輪	2
3	ロマンチン	FP	松本	2
0	デジッチ	FP	戸田	1
8	ハトル	FP	関	3
9	ストラカ	FP	西窪	1
0	トメク	FP	猪野	1
3	ノバク	FP	藤井	1
0	マイヤル	FP	尾上	1
2	ポラセク	FP	実方	2
29	（2）	PT	（2）	18

（全中大）山村、藤本、長野、田口、塚田、中川、庄司（得点0）

○…蒲生をはじめ花輪、関、長野、松本、田口、猪野といった新旧ナショナルメンバンを揃えた全中大の戦いぶりに期待が持たれた。一方、プラハ側もこの一戦をかなり重視、気迫のこもった立ち上がり見せ、コンビネーションの

悪い全中大のディフェンスをついて着々と加点、前半を17―11とリード。

全中大もつぎつぎにメンバーチェンジを行い豊富な人員で挽回を計るが、最後までコンビネーションが合わず、予想外の大差で敗れ去った。

▽7月15日
（函館市民体育館・北海道）

L・プラハ 29（15―11、14―9）20 全函館
（全函館）大橋、佐藤（得点0）

○…函館市制60周年、函館協会設立20周年の記念行事として開催された函館大会、全函館チームが強敵L・プラハを迎えうって善戦健闘した。

前半中ば頃までは互角の打ち合いの展開だったが、次第にプラハの力が勝り、20分には9―6とリード。その後も全函館が善戦したが、じりじりと引き離されてしまった。

プラハの選手の豪快なプレー

【全函館】	得		【プラハ】	得
沢谷	0	GK	シュレイバー	0
石井	0	GK	フィチェック	0
兼田	1	FP	チューマ	5
三浦	3	FP	ヒブス	5
武田	1	FP	ロマンチン	1
新井田	4	FP	デジッチ	0
藤村	4	FP	ハトル	9
松	2	FP	ストラカ	6
前	1	FP	ルーケス	0
木村	2	FP	ノバク	0
宮原	1	FP	マイヤル	1
堤	1	FP	ポラセク	2
	20 (1)	PT	(4) 29	

（審・千野、斎藤）

▽7月17日
（露橋スポーツセンター・愛知県）

L・プラハ 21（12―8、9―6）14 大同特殊鋼

【大同】	得		【プラハ】	得
柳川清	0	GK	シュレイバー	0
上村	0	GK	フィチェック	0
田中	0	FP	チューマ	1
田口	3	FP	ヒブス	3
小野	0	FP	ロマンチン	3
柳川実	2	FP	デジッチ	0
大原	1	FP	ハトル	8
中本	1	FP	ストラカ	3
浦田	1	FP	ルーケス	0
蒲生	5	FP	ノバク	2
中井	0	FP	マイセル	0
花輪	1	FP	ポラセク	1
松原	0			
	14 (3)	PT	(0) 21	

（審・岩永、岩本）

○…来日前からこの一戦を最重要視して来たというプラハの気迫が大同を上回り、日本側の〝まさか〟と思う気持ちをよそに見事に大同を降した。

前半、大同の蒲生、プラハのハトルの豪快なロングの打ち合いで立ち上がり、10分に3―3、20分に4―4、25分に6―6と緊迫した展開。ところが、ここからプラハが一気にスパート、ハトル、ストラカのパワープレーで一気に3連続ゴール、9―6とリードして前半終了。この勢いで後半もプラハが大同を押し切ってしまった。

▽7月18日
（清水市営体育館・静岡）

L・プラハ 27（16―5、11―6）11 全静岡

○…来日最終戦、プラハはスタートから多彩な攻撃を見せ、サイド、ポスト、速攻と展開した。

前半は11―6とプラハの5点リードで終了。後半立ち上がり、全静岡が2点連取して反撃の兆しを見せたが、プラハは落ち着いて攻撃、逆に7点を連取して試合を決めた。これでL・プラハは来日8戦して7勝1敗という好成績を収めた。

【全静岡】	得		【プラハ】	得
望月	0	GK	シュレイバー	0
渡辺	0	GK	フィチェック	0
小林	1	FP	チューマ	1
石井	2	FP	ヒブス	1
若田	1	FP	ロマンチン	5
梅林	0	FP	デジッチ	3
佐野	1	FP	ハトル	2
山木	1	FP	ストラカ	7
野末	0	FP	トメク	4
桐下	4	FP	ノバク	1
茂津目	0	FP	マイヤル	2
竹下	1	FP	ポラセク	1
	11 (2)	PT	(4) 27	

（審・大橋、久保田）

桐蔭学園2度目の栄冠

第9回全国高専選手権

第9回全国高専選手権は、7月29・30の両日、秋田市で開催された戦い神奈川の桐蔭学園が安定した戦いぶりで勝ち抜き、2年ぶり2度目の優勝を飾った。

▽1回勝
舞鶴 18（6―10、12―5）15 富山
鹿児島 19（13―10、6―7）17 鳥羽商船
徳山 16（9―3、7―6）9 豊田

▽2回戦
桐蔭学園 24（14―8、10―8）16 舞鶴
鹿児島 23（12―8、11―11）19 呉
長岡 16（8―10、8―3）13 秋田
明石 18（11―6、7―9）15 徳山

▽準決勝
桐蔭学園 31（15―10、16―7）17 鹿児島
長岡 18（11―7、7―5）12 明石

▽決勝
桐蔭学園 18（9―7、9―8）15 長岡

■昭和57年度男子ナショナルチーム■

▽Aチーム（第9回アジア競技大会第1次候補選手）

	氏名	所属	身長	体重	生年月日	最終出身校
○GK	大畑孝広	（本田技研鈴鹿）	184cm	76kg	1957. 1. 9	日大
	井藤英忠	（湧永製薬）	185	80	1959. 3.10	日体大
	矢内浩	（国士舘大）	189	85	1960. 8. 1	(学) 石川高
○FP	津川昭	（湧永製薬）	180	77	1951. 8. 3	大阪経大
	山本伸二	（湧永製薬）	178	70	1953. 9.17	名城大
	生駒靖夫	（湧永製薬）	185	84	1955. 7.12	京都産大
	池ノ上孝司	（湧永製薬）	185	78	1955. 9.25	日体大
	志賀良弘	（湧永製薬）	188	90	1956. 4. 4	大阪体大
	蒲生晴明	（大同特殊鋼）	192	90	1954. 4. 5	中大
	田口勝利	（大同特殊鋼）	185	78	1961.10.30	幡多農高
	斉藤幸司	（大崎電気）	174	80	1953.11.24	日体大
	長野透	（大崎電気）	177	74	1956. 3. 1	中大
	関健三	（三陽商会）	180	78	1955. 1.24	中大
	松井幸嗣	（千葉教員）	178	75	1957. 7. 6	日体大
	西山清	（日新製鋼）	181	76	1959. 4. 8	筑波大
	猪野栄一	（本田技研鈴鹿）	185	72	1959. 6.23	中大
	玉村健次	（大阪体大）	182	74	1961. 1.16	大阪商

～以上17名～

▽Bチーム

	氏名	所属	身長	体重	生年月日	最終出身校
○GK	原田昭昌	（大崎電気）	181	82	1957. 8.20	聖光学院高
	簑輪正雄	（名城大）	187	82	1960. 9.16	緑高
○FP	三本松俊雄	（本田技研鈴鹿）	178	74	1958.12.14	国士舘大
	尾上良生	（本田技研鈴鹿）	180	68	1959.11. 6	中大
	内田明克	（湧永製薬）	180	76	1959. 6.18	久留米工大付高
	楢原隆夫	（湧永製薬）	190	85	1959. 8.22	久留米工大付高
	金井克志	（大崎電気）	192	87	1960. 1.26	川口工高
	東江正作	（大崎電気）	170	68	1961. 1.20	浦添高
	佐々木功	（日体大）	188	83	1960. 4. 3	湯沢高
	高村誠一	（日体大）	187	79	1960.12.11	益田高
	中本満明	（大同特殊鋼）	184	82	1954. 4.14	安下庄高
	辻本孝仁	（大阪イーグルス）	177	73	1956. 1.19	日体大
	田口長雄	（三陽商会）	186	78	1959.10. 5	中大
	高木俊二	（日新製鋼）	184	70	1959. 9.29	新居浜工高
	山口克博	（日鉄建材）	180	68	1961.10.23	此花学院高
	荷川取義浩	（中部工大）	185	83	1961.12. 4	浦添高
	宮下和広	（同志社大）	187	75	1961. 8. 6	中京高

～以上17名～

▽A・B34名を「ロサンゼルス・オリンピック強化選手」と考える。

■昭和57年度女子ナショナルチーム■

◇Aチーム

	氏名	所属	身長	体重	生年月日	最終出身校
○GK	梅野康子	大崎電気	162cm	61	1959. 6. 2	神埼農
	井村文光子	立石電機	170	60	1959. 9.14	熊本女商
	矢部登茂子	ジャスコ	172	70	1960. 2.17	守山女高
○FP	桑原広子	立石電機	163	54	1958. 5.31	熊本女商
	姫野五十鈴	立石電機	154	57	1958. 9.20	大分東高
	藪田典子	立石電機	165	60	1959.11.15	東海大五高
	岩村英子	立石電機	173	63	1962. 1. 2	岩国商
	横山澄江	ジャスコ	159	52	1957. 3.28	山陽女高
	辻本典子	ジャスコ	166	72	1959. 1.20	市郡学園
	寺沢路子	ジャスコ	167	60	1962. 9.15	市郡学園
	西典子	大崎電気	167	66	1957.11.10	佐世保商
	石井美沙子	大崎電気	167	62	1959. 5. 4	三宅高
	竹内保子	プラザー工業	162	63	1960.11.12	市郡学園
	増永真奈美	プラザー工業	158	59	1961. 2. 6	仁愛女高
	大高良子	日立栃木	173	66	1959.11.10	函館商
	前田重子	日立栃木	161	58	1962. 3.11	美須々ヶ丘高
	村上敦子	日本ビクター	164	62	1960. 5.24	秋田和洋
	志村和子	日本ビクター	165	62	1961. 1.14	山梨高
	八木千津子	北国銀行	155	55	1959. 8.31	小松市女

～以上19名～

◇Bチーム

	氏名	所属	身長	体重	生年月日	最終出身校
○GK	荒木晴美	立石電機	172	68	1961. 5.18	熊本女商
	畑添真由美	プラザー工業	170	64	1962. 3.15	武庫川女大
	葛生豊子	日立栃木	167	65	1962. 5.25	藤岡高
○FP	亀園未栄	立石電機	159	50	1960. 4.10	小林商
	是枝澄江	立石電機	160	57	1960.10.22	岩国商
	若林美智子	ジャスコ	166	60	1962. 1.17	山陽女高
	石田裕子	ジャスコ	167	63	1962. 5.20	山陽女高
	鈴木千秋	大和銀行	165	63	1960. 9.16	熊本市高
	川添弘子	大和銀行	167	62	1962.10.31	国分実業
	徳渕妙子	大崎電気	161	59	1960. 3. 5	神埼農
	鈴木敬子	筑波大	173	64	1961. 9. 4	栃木女高
	高光順子	日本ビクター	163	60	1962. 8. 6	徳山商
	中本美子	東京重機工業	164	57	1962. 9.17	山陽女高

～以上13名～

◇A・B32名を「ロサンゼルス・オリンピック強化選手」と考える。

第9回全国教員養成大学研修会

●レポート●

於筑波大学　7月27日～31日まで

第9回全国教員養成ハンドボール大学研修会は、7月27日から31日まで、筑波大学において行われました。

○参加者　男女　134人

○参加大学　滋賀大学（男子及び女子）　島根大学（男子）
宮城教育大学（男子・女子）
都留文科大学（男子・女子）
茨城大学（男子・女子）創価大学（男子・女子）文教大学・
奈良女子大学・駒沢大学（女子）
福岡大学（女子）　山形大学・
奈良教育大（女子）　以上17チーム

○役員及び講師（敬称略）
本田娟一・山崎武・北井晴次・大西武三・飯田信行・水上一・小山哲央・平岡秀雄・浅野鉦世・河村レイ子・土井秀和・笹倉清則・清水宣雄・村松誠・田中守

○講習内容
基礎技術の指導は、経験能力別にグルーピングし・戦術的な指導の場合は、各チームごとに指導を行なった。内容はグループやチームの状態により異っているが、例をあげてみると次の通りである。

○研修会賞　ミニゲームのリーグ戦の結果一位二位にトロフィーが贈られた。
男子1位　茨城大学、二位山形大学、女子一位、文京大学及び茨城大学

◆7月28日
＜午前＞くもり
▽場所　グランド
▽チーム名　C班
▽講師名　山崎先生
▽教育内容
○ディフェンスのステップについて（ピボットを用いるステップ）
○ディフェンスの構え方
○フェイント　・先にドリブルしてからのフェイント　・オフェンスのステップについて
○1対1　・ステップシュートモーションからのフェイント　・先にドリブルをするフェイント
○2対2　・オープン攻撃（パラレルパス）　・1人に2人のディフェンスをひきつけてからのパス　・オフェンスの位置取り
○パスキャッチ
▽感想
フットワークがいかに大切であるかということがわかった。またハンドボールにおいて1対1の重要性も同様である。山形では、フェイントも普通のものであり、フェイクする前にドリブルをするのは初めて知った。常にこのプレーが出来るようによく練習したい。

＜午後＞
▽場所　グランド
▽チーム名　山形大学
▽講師名　山崎先生
▽教育内容
○準備運動　・ランパス　・ディフェンスのステップ　・1対1のフェイント
○パス回し　・4対3　・5対4　・6対6
オフェンス　・シュートを打つための位置取り　・切りかえしのバックステップ
ディフェンス　・ポストの守り方　・フォローのやり方　・各自のディフェンスについて
○ミニゲーム　山形大対創価大
山形大対滋賀大
▽感想
ディフェンスでは声が互いになく、うまくいかなかった。オフェンスでは、間合が近くなりすぎる点もあり、もっとタテに切り込んでシュートを狙えるようにするべきであると思った。
特に、今後ディフェンスのことについてもっと教えていただきたい。山形大はディフェンスが大変弱いのでよろしくお願いします。
▽記入者　岡崎善浩

◆7月29日
＜午前＞雨後くもり
▽場所　第1、第3体育館
▽チーム名　宮城教育大
▽講師名　水上先生、土井先生
▽教育内容
○1～5班
○フェイントの足のさばき方
・ジャンプストップ→横へとぶ
・シュートモーションから
○2対2からシュート　・平行

・クロス
○3対3からシュート　・平行
・クロス
○ポストを使ってローリング
○6～8班
▽感想
　2対2では切り込む方はフェイントをしっかりかけ、ディフェンスをひきつけなければならない。後ろから走る人の瞬間的な判断が要求されるが、とてもむずかしかった。自分がボールをもらいたい時は声を出して呼ぶことを忘れないようにしたい。
　3対3で平行に走っていくのは前から練習していたので出来たが、くずれたときの立て直し方や応用のプレーがわからないので、考えていきたいと思う。
＜午後＞　くもり
▽場所　新多目的グランド
▽チーム名　宮城教育大
▽講師　土井先生
▽教育内容
○チームオフェンス（創価大と6対6）・目的を持った動き・数的優位をつくる→3対2
○ミニゲーム　①対茨城大2－8
　②対文教大2－7
▽感想
　1試合目はダブルポストで攻めたのだが、パスがつながらず、なかなかシュートまでいかなかった。ポストと合わせて3対2を作らなければならなかったのだが、そこまでいけなかった。また、自分たちのミスで速攻を何本も出されてしまった。ミスをもっと少なくしたい。
　2試合目はシングルポストで攻めたが、パスミス、キャッチミスが多くて、やりたいプレーが出来ないで終わってしまった。チームにけが人が何人か出てきたので、健康管理にも注意してがんばりたい。
▽記入者　中島晶美

◆7月30日
＜午前＞　小雨
▽場所　クラブハウス
▽チーム名　都留文科大学
▽講師名　全先生方
▽教育内容
○ハンドボールと自分との関わり、価値観
○11人制について（芝浦工大対ルーマニアの試合のビデオ
○シュート
○巧くなるコツ　平岡先生はじめ4名の先生方より
○ルールについて　清水先生
▽感想
　とても時間が早く過ぎてしまいもっといろいろ先生方のお話しが聞きたかった様に思います。11人制での試合では、かなりのスタミナが必要だと感じ、今は7人制なので11人制でやる位のスタミナをつけておけば万全なのではないかと思います。
　体力作りにも少し力を入れたいナ（これはあくまでも私自身なのですが）。ビデオもう少しみたかったです。
△午後▽くもり
▽場所　グランド
▽チーム名　都留文科大
▽講師　清水、田中先生
▽教育内容
○Q&A　清水先生が質問に対し答えて下さいました。
○チーム毎のアップ
○三角パス
○ディフェンスのつめの練習
○サイド　3対2（ディフェンスの守りに重点をおきながら）
○ディフェンス練習（6人で）
○ゲーム　対宮城教育大、対滋賀大
▽感想
　明日はゲームだけなので、いろいろご指導していただけるのはもう終わりになってしまい残念です。もう少しやりたくて仕方ありません。
　1、2年生が一回り大きくなった様な気がし、それぞれが何かをつかんだのではないかと思うと、うれしくてたまりません。
　今日はディフェンス中心だったのですが、フットワークの大切さ声を出して守る事が大切だとつくづく感じ、また、守りのパターンにもいろいろあることがわかりました。
▽記入者　小野　紀恵
◆7月31日
＜午前＞くもり後晴
▽場所　グランド
▽チーム名　滋賀大女子
▽教育内容
○アップ
○試合
　対混成チーム　5－0で勝ち
　対宮城教育大　3－1で勝ち
　対茨城大　？－0で負け
　※茨城大と一緒に練習をさせてもらって、とても勉強になりました。1点とりたかった。
　計6勝2敗1分で第3位。
▽感想
　終わりました。本当に勉強になりました。来年は一部になって来ます。
　どうもありがとうございました。
▽記入者　谷口由紀子

各地の記録

◆男子第20回女子第9回中国四国学生春季リーグ戦
（5月22・23・29・30日）

▽男子1部
広島大 25—14 広島工大
広島大 23—19 修道大
広島大 32—18 岡山大
広島大 36—15 山口大
修道大 19—18 山口大
修道大 23—22 岡山大
修道大 22—17 広島工大
広島工大 32—20 岡山大
広島工大 31—20 山口大
山口大 22—17 岡山大
〔順位〕①広島大②修道大③広島工大④山口大⑤岡山大

▽男子2部
愛媛大 24—15 鳥取大
愛媛大 23—13 広島大福山
愛媛大 20—12 高知大
高知大 21—20 広島大福山
高知大 19—19 鳥取大
広島大福山 22—20 鳥取大
鳥取大 33—16 島根大
島根大 18—18 高知大
島根大 31—26 愛媛大
〔順位〕①愛媛大②高知大③広島大福山④鳥取大⑤島根大

▽男子3部
徳島大 27—24 山口大工
松山商大 32—25 徳島大
徳島大 28—16 近大呉工
松山商大 38—26 山口大工
松山商大 26—13 近大呉工
山口大工 33—21 近大呉工
徳島大 31—19 香川大
松山商大 33—20 香川大
山口大工 34—26 香川大
香川大 28—19 近大呉工
〔順位〕①松山商大②徳島大③山口大工④香川大⑤近大呉工

▽女子
岡山県短 16—11 山口大
岡山県短 32—11 高知大
岡山県短 22—9 岡山大
山口大 21—8 高知大
岡山大 17—7 高知大
山口大 24—9 岡山大
〔順位〕①岡山県短②山口大③岡山大④高知大

◆三重県高校総体
（5月29・30・31日）

＜男子＞
▽1回戦
桑名西 14—12 四日市西
四日市中央工 17—10 四日市南
海星 23—18 高田
桑名工 19—3 朝門
▽2回戦
四日市工 35—14 桑名西
尾鷲 29—16 海星
桑名 20—13 桑名工
四日市 16—11 亀山
四日市中央工 20—17 星第二
津工 20—8 津
▽3回戦
四日市工 31—1 四日市
尾鷲 25—13 津工
桑名 12—9 四日市中央工
▽決勝リーグ
四日市工 23—8 尾鷲
桑名 15—14 尾鷲
四日市工 22—9 桑名
〔順位〕①四日市工②桑名③尾鷲

＜女子＞
▽1回戦
桑名 14—8 四日市西
▽2回戦
津女 33—1 松阪女
上野 21—0 メリノール
亀山 27—8 津西
四日市商 24—7 四日市
尾鷲 24—0 四日市南
暁 35—0 桑名
▽3回戦
四日市商 15—11 津女
上野 3—2 尾鷲
暁 20—3 亀山
▽決勝リーグ
暁 15—3 上野
四日市商 8—4 上野
暁 16—10 四日市商
〔順位〕①暁②四日市商③上野

◆石川県高校総合体育大会
（6月3・4・5・6日）

＜男子＞
▽1回戦
星稜 25—14 寺井
二水 20—15 大聖寺
羽咋 27—16 松任
泉丘 23—7 金沢商
▽2回戦
小松 49—8 北陸大谷
松陵工 不戦勝 加賀
小松商 17—15 市立工
向陽 19—12 宝達
小松工 31—20 星稜
錦丘 35—15 二水
県工 29—16 羽咋
小松明峰 15—11 泉丘
▽3回戦
小松工 22—18 小松
錦丘 31—19 松陵
小松商 16—15 県工
向陽 16—15 小松明峰
▽準決勝
小松工 29（11—13 18—10）23 錦丘
小松商 25（14—4 11—3）7 向陽
▽決勝
小松工 29（13—13 16—6）19 小松商

＜女子＞
▽1回戦
小松商 19—1 松任
小松明峰 11—5 金沢商
短大高 20—2 加賀
小松市女 24—1 星稜
▽準決勝
小松商 19（9—4 10—1）5 小松明峰
小松市女 37（20—0 17—0）0 短大高
▽決勝
小松市女 25（13—5 12—1）6 小松商

◆佐賀県高校総体兼全国高校・九州高校県予選
（6月5・6日）

＜男子＞
▽決勝リーグ
佐賀農 21—14 佐賀東
神埼農 21—11 佐賀西
神埼高 23—16 佐賀農
佐賀東 17—17 神埼農
神埼高 25—10 佐賀西
佐賀東 16—11 佐賀西
佐賀農 18—12 神埼農
神埼高 20—16 佐賀東
佐賀農 29—13 佐賀西
神埼高 30—15 神埼農
〔順位〕①神埼高②佐賀農③佐賀東④神埼農⑤佐賀西

＜女子＞
▽決勝リーグ
神埼農 15—9 佐賀東
佐賀女 12—5 嬉野商
佐賀東 14—6 神埼高
神埼農 11—10 佐賀女
嬉野商 14—5 神埼高
神埼農 12—6 嬉野商
佐賀女 15—4 佐賀東
神埼農 25—3 神埼高
佐賀東 6—5 嬉野商
佐賀女 14—8 神埼高
〔順位〕①神埼農②佐賀女③佐賀東④嬉野商⑤神埼高

◆第21回岡山県高校総体
（6月5・6日）

＜男子＞

▽決勝リーグ
天城 26－15 水島工
天城 31－13 倉敷商
総社 14－13 天城
倉敷商 24－15 水島工
総社 30－17 水島工
総社 23－18 倉敷商
〔順位〕①総社②倉敷天城③倉敷商④水島工〕

＜女子＞
▽決勝リーグ
総社 12－11 天城
総社 23－11 倉敷商
総社 28－6 操山
天城 14－12 倉敷商
天城 18－10 操山
倉敷商 23－9 操山
〔順位〕①総社②倉敷天城③倉敷商④岡山操山

◆第5回東北クラブ選手権
（6月5・6日）

＜男子＞
▽1回戦
聖光ク 44－16 古川工高OB
東北ムネカタク 27－18 東根球友会
▽2回戦
聖光ク 33－27 七戸ユニオン
盛岡商友会 38－13 筑館ク
東北学院大OB会 27－18 郡山ACク
花巻ク 21－12 東北ムネカタク
▽準決勝
聖光ク 30（14－10、16－11）21 盛岡商友会
東北学院大OB 28（3－2、4－4、13－10、8－11）27 花巻ク
▽決勝
聖光ク 27（12－12、15－12）24 東北学院大OB

＜女子＞
▽リーグ戦
あすなろク 26－3 翠会
あすなろク 23－4 塩釜ク
〔順位〕①あすなろク②塩釜ク③翠会

◆富山県高校総合体育大会・全国高校総体兼北信越大会県予選
（6月5・6・7日）

＜男子＞
▽1回戦
雄山 19－16 富山中部
高岡 15－14 富山南
▽2回戦
高岡向陵 45－7 雄山
小杉 27－7 伏木
大沢野工 14－13 新湊
高岡商 30－10 富山商
八尾 35－8 富山東
高岡南 24－11 二上工
富山工 26－18 富山
氷見 39－5 高岡
▽3回戦
高岡向陵 28－12 小杉
高岡商 31－7 大沢野工
八尾 20－12 高岡南
氷見 28－10 富山工
▽準決勝
高岡向陵 30（15－7、15－7）14 高岡商
氷見 16（14－10、12－4）14 八尾
▽決勝
高岡向陵 18（8－9、10－6）15 氷見

＜女子＞
▽1回戦
小杉 17－1 新湊
富山女短付 10－8 富山女
高岡女 24－2 高岡
富山北部 18－7 清光女
有磯 31－4 高岡第一
▽2回戦
高岡商 16－5 小杉
高岡女 7－6 富山女短付
富山北部 25－9 雄山
有磯 19－6 高岡向陵
▽準決勝
高岡商 6（4－1、2－1）2 高岡女
有磯 26（14－2、12－3）5 富山北部
▽決勝
有磯 10（6－5、4－3）8 高岡商

◆全国高校選手権福岡県予選
（6月5・6日）

＜男子＞
▽1回戦
久工大附 31－7 香椎
九産業 21－6 宗像
福岡 17－11 小倉西
三池 16－11 東海五
新宮 29－5 小倉工
西陵 34－3 田川工
若松 13－12 博多工
福岡工 18－10 筑紫中央
▽2回戦
久工大附 27－9 九産業
福岡 19－18 三池
新宮 18－14 西陵
福岡工 20－14 若松
▽準決勝
久工大附 42（23－4、19－8）12 福岡
福岡工 25（5－3、3－3、10－5、7－12）23 新宮
▽決勝
久工大附 27（16－9、11－3）12 福岡工

＜女子＞
▽1回戦
若松 11－7 九州女
春日 9－4 浮羽
▽2回戦
香椎 16－9 若松
福岡 23－2 博多
東海五 14－7 筑紫中央
筑紫女 16－3 春日
▽準決勝
福岡 17（8－8、9－6）14 香椎
東海五 10（6－4、4－2）6 筑紫女
▽決勝
東海五 15（10－4、5－3）7 福岡

◆第28回関東高校大会
（6月5・6・7日）

＜男子＞
▽1回戦
日体荏原 26－16 法政二
県多摩 11－9 県吉井
県甲府一 31－25 東邦大付東邦
県浦和西 20－19 駒沢大高
県船橋旭 14－13 県生田
県石橋 18－17 日本大明誠
県川口工 28－11 県水海道一
県前橋 28－13 県足利工
横浜商工 30－9 県土浦工
▽2回戦
日体荏原 28－16 国学院栃木
県川口北 14－12 県多摩
県甲府一 16－13 県岩井
県日川 17－14 県浦和西
県富岡 21－12 県船橋旭
市川 19－17 県石橋
明星 26－14 県川口工
横浜商工 28－14 県前橋
▽3回戦
県川口北 25－20 日体荏原
県日川 20－14 県甲府一
県富岡 20－15 市川
明星 27－26 横浜商工
▽準決勝
県川口北 23（11－10、12－9）19 県日川
明星 28（4－2、3－1、12－11、9－10）24 県富岡
▽決勝
明星 28（16－8、12－5）13 県川口北

＜女子＞

▽1回戦

県桂 13－13（1PTC0）県和泉
県麻生 12－10 県金井
東邦大付東邦 17－13 都三宅
県行田女 9－8 和洋女大付国府台女
成美学園女 12－2 県山梨
県浦和西 14－2 県下妻二
高崎市女 12－8 県栃木女
藤村女 13－7 県栃木商
明倫 14－8 群馬女短付

▽2回戦

国学院栃木 20－8 県桂
市川口女 13－6 県麻生
県日川 12－8 東邦大付東邦
県吉井 12－8 県行田女
佼成学園 16－15 成美学園女
昭和学院 17－12 県浦和西
県水海道二 17－11 高崎市女
明倫 12－10 藤村女

▽3回戦

国学院栃木 21－16 市川口女
県日川 14－8 県吉井
昭和学院 10－9 佼成学園女
県水海道二 11－5 明倫

▽準決勝

県日川 19（9－2 10－3）5 国学院栃木
昭和学院 17（6－8 11－7）15 県水海道二

▽決勝

昭和学院 9（4－5 5－3）8 県日川

◆福井県高校総体（6月5～7日）

＜男子＞

▽決勝トーナメント1回戦

高志 26－10 丹南
武生 18－10 福井商

▽準決勝

北陸 22（11－6 11－9）15 高志
羽水 13（7－5 6－6）11 武生

▽決勝

北陸 31（12－7 19－4）11 羽水

＜女子＞

▽決勝トーナメント1回戦

藤島 10－4 科技
福井商 13－9 武生商

▽準決勝

仁愛 23（14－0 9－2）2 藤島
福井商 9（5－4 4－4）8 北陸

▽決勝

仁愛 10（3－1 7－1）2 福井商

◆全国高校総体奈良県予選（6月5・6・12・13日）

＜男子＞

▽1回戦

広陵 17－15 正強
郡山 17－12 十津川
原 25－13 天理
奈良 13－10 斑鳩
奈良工 26－16 東大寺
一条 34－16 桜商
生駒 19－7 畝傍

▽2回戦

添上 32－2 広陵
郡山 13－13 原
奈良 19－18 奈良工
生駒 24－14 一条

▽準決勝

添上 14（7－4 7－7）11 郡山
生駒 17（8－3 9－5）8 奈良

▽決勝

添上 18（10－5 8－6）11 生駒

＜女子＞

▽1回戦

郡山 14－6 帝塚上
短大付 38－4 榛原

▽2回戦

添上 22－6 郡山
十津川 16－7 白藤
生駒 12－7 一条
短大付 15－11 原

▽準決勝

添上 28（15－0 13－3）3 十津川
短大付 19（11－3 18－6）9 生駒

▽決勝

添上 23（10－7 13－6）13 短大付

◆第37回国体兼高校総体山梨県予選

（6月6・12・13・19日）

＜男子＞

▽1回戦

甲府ク 22－17 中道体協
大月スワローズ 13－12 塩山ク
吉田ク 15－12 南ク

▽準決勝

日川ク 34（18－6 16－9）15 甲府ク
吉田ク 23（10－9 13－6）15 大月スワローズ

▽決勝

日川ク 33（21－7 12－8）15 吉田ク

＜少年男子＞

▽1回戦

甲府工高 45－6 韮崎高
機山工高 22－17 吉田高
都留高 25－7 谷村工高
甲稜高 26－5 甲府南高

▽2回戦

北富士工高 24－17 甲府西高
駿台甲府高 24－18 韮崎工高
東海大甲府高 15－5 大月短大付高
峡北高 23－13 甲府東高
日川高 27－9 甲府工高
塩山商高 26－25 機山工高
甲府一高 27－8 都留高
日大明誠高 20－13 甲陵高

▽3回戦

日川高 34－5 北富士工高
塩山商高 29－10 駿台甲府高
甲府一高 37－13 東海大甲府高
日大明誠高 38－9 峡北高

▽決勝リーグ

日川高 23（9－7 14－3）10 塩山商高
日川高 18（9－8 9－9）17 甲府一高
日川高 20（12－5 8－8）13 日大明誠高
日大明誠高 29（17－9 12－11）20 甲府一高
日大明誠高 26（13－8 13－3）11 塩山商高
甲府一高 23（13－8 10－12）20 塩山商高

（順位）①日川高（3勝）②日大明誠高（2勝1敗）③甲府一高（1勝2敗）④塩山商高（3敗）

＜成年女子＞

▽決勝

日川ク 46（19－1 27－3）4 甲府ク

＜少年女子＞

▽1回戦

塩山商高 16－7 甲府東高
甲府西高 10－4 甲府一高
吉田商高 24－7 甲府南高
第一商高 13－6 甲府商高

▽2回戦

日川高 33－4 塩山商高
吉田高 23－2 甲府西高
桂高 21－15 吉田商高
山梨高 25－5 第一商高

▽決勝リーグ

日川高 22（13－3 9－2）5 吉田高
日川高 20（12－1 8－6）7 桂高
日川高 19（9－3 10－1）4 山梨高
桂高 7（6－0 1－0）0 吉田高

山梨高 14（6－9、8－2）11 柱高
吉田高 9（5－3、4－5）8 山梨高
（順位）①日川高（3勝）②柱高（1勝2敗得失差マイナス9）③山梨高（1勝2敗得失差マイナス13）④吉田高（1勝2敗得失差マイナス23）

◆北信越春季学生リーグ戦
（6月12、13日）
▽男子一部
金沢大 14（9－6、5－5）11 富山大
金沢工大 28（15－10、13－10）20 新潟大
信州大 17（12－12、5－4）16 金沢大
金沢工大 25（13－8、12－6）14 富山大
信州大 26（13－8、13－6）14 新潟大
金沢大 23（12－4、11－7）11 新潟大
富山大 15（7－5、8－9）14 信州大
金沢工大 23（9－14、14－7）21 金沢大
富山大 14（10－5、4－7）12 新潟大
金沢工大 20（10－8、10－7）15 信州大
（順位）①金沢工大4勝②金沢大2勝2敗③信州大2勝2敗④富山大2勝2敗⑤新潟大4敗（※2～4位は得失点差）
▽男子二部
長野大 29（14－3、15－5）8 金沢美術工芸大
金沢医科大 21（10－3、11－5）10 富山医科薬科大
福井大 27（13－11、14－3）14 金沢美術工芸大
長野大 24（10－6、14－5）11 金沢医科大
福井大 31（15－3、16－7）10 富山医科薬科大
富山医科薬科大 11（8－6、3－4）10 金沢美術工芸大
福井大 22（12－9、10－9）18 金沢医科大
長野大 31（11－7、20－8）15 富山医科薬科大
金沢医科大 16（5－6、11－7）13 金沢美術工芸大
長野大 20（14－3、6－12）15 福井大
（順位）①長野大4勝②福井大3勝1敗③金沢医科大2勝2敗④富山医科薬科大1勝3敗⑤金沢美術工芸大4敗

◆東北春季学生リーグ戦
＜男子一部＞
▽6月17日
岩手大 23（11－9、12－8）17 福島大
東北学院大 24（12－7、12－5）12 宮城教育大
仙台大 20（7－8、13－10）18 山形大
岩手大 20（12－8、8－6）14 東北学院大
福島大 34（18－5、16－6）11 山形大
仙台大 20（13－9、7－3）12 東北大
▽6月18日
仙台大 28（11－7、17－3）10 宮城教育大
福島大 22（11－8、11－3）11 東北大
岩手大 31（15－8、16－5）13 山形大
福島大 33（20－8、13－6）14 宮城教育大
仙台大 19（8－8、11－10）18 東北学院大
東北大 21（8－12、13－9）21 山形大
▽6月19日
東北学院大 25（16－7、9－10）17 福島大
山形大 16（8－5、8－10）15 宮城教育大
岩手大 21（13－8、8－7）15 東北大
東北学院大 28（13－7、15－9）16 山形大
東北大 26（12－11、14－8）19 宮城教育大
仙台大 20（10－8、10－8）16 岩手大
▽6月20日
岩手大 30（13－11、17－5）16 宮城教育大
福島大 21（10－10、11－7）17 仙台大
東北大 16（7－7、9－8）15 東北学院大
（順位）①岩手大5勝1敗②仙台大5勝1敗③福島大4勝2敗④東北学院大2勝3敗1分⑤東北大1勝4敗1分⑥宮城教育大6敗
＜男子二部＞
弘前大 21（9－9、12－8）17 東北工大
弘前大 34（20－12、14－7）19 日大工学部
東北工大 27（20－11、7－11）22 日大工学部
（順位）①弘前大2勝②東北工大1勝1敗③日大工学部2敗
＜女子＞
岩手大 13（6－1、7－0）1 宮城教育大
岩手大 17（11－3、6－4）7 福島大
福島大 11（7－2、4－3）5 宮城教育大
（順位）①岩手大2勝②福島大1勝1敗③宮城教育大2敗

◆第35回群馬県高校選手権
（6月13・20日）
＜男子＞
▽1回戦
前橋 25－20 前橋商
桐生工 34－9 藤岡
▽2回戦
利根農 15－11 下仁田
桐生 43－20 育英
富岡 25－12 前橋
吉井 38－6 桐生工
▽準決勝
富岡 21（13－2、8－2）4 利根農
吉井 27（13－5、14－11）16 桐生
▽決勝
富岡 29（16－5、13－8）13 吉井
＜女子＞
▽1回戦
前橋商 7－6 前橋市女
高崎市女 21－5 前橋東商
桐生西 15－7 桐生女
▽2回戦
下仁田 23－6 高崎女
群女短付 18－10 前橋商
高崎市女 41－6 佐藤学園
吉井 22－6 桐生西
▽準決勝
吉井 22（10－4、12－7）11 下仁田
群女短付 12（7－5、5－4）9 高崎市女
▽決勝
吉井 16（8－5、8－5）10 群女短付

◆全国高校茨城県予選
（6月19・20日）
＜男子＞
▽1回戦
岩井 27－7 石岡一
下館一 19－13 古河三
麻生 22－12 勝田
竹園 30－10 岩井西
土浦工 18－11 水戸一
笠間 22－14 日立工
土浦三 26－11 竜ケ崎一
水海道 25－22 江戸川取手
▽2回戦
岩井 22－6 下館一
麻生 19－19（4 PTC 3）竹園
笠間 25－24 土浦工
土浦三 20－18 水海道一
▽準決勝

岩井 19（10－5 9－7）12 麻生
笠間 26（12－12 14－13）25 土浦三
▽決勝
岩井 24（12－3 12－7）10 笠間
＜女子＞
▽1回戦
水海道二 26－1 磯原
藤代 15－12 岩井西
潮来 21－7 石岡二
高萩 10－5 結城二
鉾田二 15－8 下妻二
竜ケ崎一 13－8 笠間
土浦二 10－7 大田二
麻生 17－12 岩井
▽2回戦
水海道二 14－8 藤代
潮来 11－7 高萩
鉾田二 12－7 竜ケ崎一
麻生 25－7 土浦二
▽準決勝
水海道二 17（10－2 7－1）3 潮来
鉾田二 9（4－1 5－7）8 麻生
▽決勝
水海道二 20（12－2 8－3）5 鉾田二

◆第37回国体沖縄県予選
（6月23・26日）
＜成年男子＞
▽1回戦
前原OB 27－24 宮古ク
石敢富 不戦勝 ハンドーボイズ
那覇高OB 21－19 興南OB
▽2回戦
沖縄教員 31－23 前原OB
八重山 31－27 石敢富
浦添OB 36－20 コザク
那覇高OB 28－25 糸満OB
▽準決勝
沖縄教員 33（17－9 16－7）16 八重山
浦添 25（1－3 4－1 13－12 7－8）24 那覇高OB
▽決勝
沖縄教員 29（12－13 17－11）24 浦添OB
＜少年男子＞
▽1回戦
沖縄工高 33－23 前原高
興南高 24－22 首里高
▽決勝
沖縄工高 28（17－11 11－7）18 興南高
＜成年女子＞
▽1回戦
浦添商OG 不戦勝 糸満OG
▽準決勝
浦添OG 12（6－4 6－4）8 浦添商OG
首里OG 10（6－1 4－1）2 興南OG
▽決勝
首里OG 23（11－6 12－7）13 浦添OG
＜少年女子＞
▽1回戦
前原高 16－7 浦添高
首里高 15－4 読谷高
▽決勝
首里高 13（8－7 5－2）9 前原高

◆第12回関東クラブ大会兼第2回全国クラブ大会関東地区予選
（6月26・27日）
＜男子＞
▽1回戦
桜門会 21－19 日川ク
筑波振球会 32－10 三春台ク
46G会 21－10 小金ク
前橋ク 22－16 柿の実ク
▽準決勝
筑波振球会 23（12－10 11－11）21 桜門会
前橋ク 30（16－13 14－10）23 46G会
▽決勝
筑波振球会 30（15－14 15－13）27 前橋ク
＜女子＞
▽1回戦
武蔵野ク 19－9 日川ク
光電ク 15－5 昭和学院ク
保土ケ谷ク 14－6 桜芳ク
▽準決勝
武蔵野ク 15（8－4 7－5）9 光電ク
保土ケ谷ク 12（8－6 4－3）9 46G会
▽決勝
武蔵野ク 17（8－1 9－1）2 保土ケ谷ク

◆第34回岩手県民体育大会
（7月24・25・26日）
＜高校男子＞
▽1回戦
釜石南 29－4 久慈
一戸 16－14 岩手
▽2回戦
盛岡四 34－6 釜石南
盛岡三 21－20 大迫
福岡 16－15 生活学園
花巻北 26－17 一関一
盛岡一 30－14 宮古
水沢 20－12 岩手橋
花巻農 22－11 一関工
盛岡商 37－12 一戸
▽3回戦
盛岡四 36－12 盛岡三
花巻北 20－19 福岡
盛岡一 31－4 水沢
盛岡商 24－11 花巻農
▽準決勝
盛岡四 34（17－11 17－6）17 花巻北
盛岡商 21（9－8 12－7）15 盛岡一
▽決勝
盛岡四 24（14－12 10－8）20 盛岡商
＜高校女子＞
▽1回戦
岩手女 16－4 一戸
▽2回戦
盛岡二 22－10 岩手女
宮古 16－7 釜石南
大原商 14－13 釜石商
平館 28－1 水沢
花巻農 14－6 盛岡三
花巻北 14－8 黒沢尻南
盛岡白百合 9－5 生活学園
花巻南 17－3 久慈山形
▽3回戦
盛岡二 20－5 宮古
平館 20－7 大原商
花巻農 13－6 花巻北
花巻南 16－3 盛岡白百合
▽準決勝
盛岡二 15（7－4 8－4）8 平館
花巻南 10（4－4 6－1）5 花巻農
▽決勝
盛岡二 11（5－1 6－4）5 花巻南
＜一般男子＞
▽1回戦
岩手大 34－19 石桜ク
鵬ク 23－20 志高ク
花巻送球会 30－21 岩手自衛隊
白亜ク 26－20 花巻ク
▽2回戦
岩手教員ク 29－27 岩手大
岩手フェザント 32－19 鵬ク
花巻送球会 18－11 冨手スポーツ
白亜ク 21－20 盛岡商友会
▽準決勝
岩手教員ク 26（15－13 11－12）25 岩手フェザント
白亜ク 32（13－10 19－10）20 花巻送球会
▽決勝
岩手教員ク 19（8－6 11－9）15 白亜ク

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二一〇号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五七年七月二十五日印刷 昭和五七年八月一日発行
東京都渋谷区神南一—一—一
電話代表(467)七〇九七
振替東京六—五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五十円
(年間購読料三千三百円)

株式会社アシックス

ストップ&ジャンプ自在。

グリップ力抜群のニューソール装備、新製品〈スカイハンドスペシャル〉

アシックスタイガーの新製品 スカイハンドスペシャル はストップ&ジャンプが自在にできるハンドボール専用シューズです。
写真の底意匠にご注目ください。複雑なトレッド(溝)をソール全面に刻み込んでいます。これは、ハンドボール特有の、多角的な動きに対応するためで、とくに拇指球下のリング状意匠はグリップ力を飛躍的に高めます。このため、選手は思うようにストップでき、また思うようにジャンプすることができます。
●甲被はステア表革と銀付ベロアの2タイプ。●独創のカップソールは甲被を食わえ込む設計で、足ブレを防ぎます。●大型ヒールカウンターはカカトをガッチリ保持し、選手の動作能力を高めます。
●軽さ、クッション性も卓越。
ストップ&ジャンプの スカイハンドスペシャル で栄光をつかんでください。

asics TIGER®
Handball Shoes

NEW
スカイハンド スペシャル(THH705)
●甲被はステア表革(ホワイト)、銀付ベロア(レッド、ロイヤルブルー)、裏地はナイロン。●アウターソールはラバーのカップソール。●ロイヤルブルー×ホワイト、ホワイト×レッド、レッド×ホワイト。●サイズ 22.5~28.0cm
標準小売価格 ¥12,000